

有料指定袋制導入前後の市民アンケート調査結果

1 調査の概要.....	3
(1) 調査の趣旨及び留意事項.....	3
(2) 調査対象及び調査時期.....	4
① 調査対象及び調査規模.....	4
② 調査期間.....	4
2 集計結果と考察.....	5
(1) 回答者の属性.....	5
① 各調査で利用可能な属性情報.....	5
② 属性の集計及び比較結果.....	5
(2) 自宅でのごみの出し方等.....	9
(3) 3R（リデュース(発生抑制)・リユース(再使用)・リサイクル) 行動.....	14
① 日常の買い物などでの2R行動〔第1回:Q2 第2回:Q2〕.....	14
② リサイクルやリユース行動〔第1回:Q3 第2回:Q3〕.....	16
③ 3R行動の変化.....	18
(4) ごみに関する情報の入手方法.....	20
(5) 有料指定袋制の実施に関連する内容について.....	24
(6) プラスチック製容器包装モデル分別収集について〔第2回:Q5.9〕.....	30
(7) 店舗・工場等の事業所との併設状況〔第2回:Q9.8〕.....	32
(8) フリーマーケット等の1年間の利用回数〔第1回:Q6〕.....	32
(9) ごみ問題やリサイクルへの関心及び意見.....	33

平成19年7月 京都市環境局

1 調査の概要

(1) 調査の趣旨及び留意事項

本調査は、有料指定袋制導入前後の市民の意識・行動の変化の有無・程度などを把握することを目的に、市民のごみ減量・リサイクル等のごみに関する行動や意識についてのアンケート調査を実施したものであり、家庭ごみ有料指定袋制を導入した平成 18 年 10 月の前後に、郵送アンケート調査（2000 件発送）を 1 度ずつ実施した。

これまでの研究事例では、ごみ有料化等の制度導入後に意識や行動に「変化があったかどうか」を問う調査が多かったが、この場合、回答が誘導的になりやすいのではないかと懸念があることと、意識・行動の「程度」がどのように変化したかを把握することが難しいという制約がある。このため、本調査では、多くの設問において、有料指定袋制導入前後で同一の形式による質問を行い、市民の意識・行動の変化を客観的に把握するよう努めた。

<留意事項>

- 本報告では、主に 2 回の調査の集計結果を比較することにより、変化の有無等を考察した。
- また、基本的には不明分（無回答など）を含めて集計・比較している（ただし、一部、両調査間の「不明」分の差が大きいものについては、「不明」を除いた比較も行っている。）
- 有料指定袋制導入前後の 2 回の調査間で回答者の男女・性別等の基本属性比率がほぼ同程度であり、集計結果は一定程度の比較には耐えうると思われる。
- 本資料では、各設問に対する回答全体に、2 回の調査間で変化があったといえるかについて、 χ^2 （カイ 2 乗）独立性の検定（有意水準 5%）を行い、また同時に、択一選択で特定の回答肢の比率の変化に着目する箇所では、2 回の調査間の比率の差が有意なものであるかについての検定（有意水準 5%）*も行い、これらの検定結果に基づく記述を付け加えた。
- χ^2 検定で独立（変化あり）とならなかった設問で、比率の差の検定で有意となった箇所の解釈には留意する必要がある、そのことを明記した。
- 両調査間の比率の差について：本調査の標本数（約 1,000）から、概ね 3～4%以上の差がある場合に、検定の結果差が有意となっているので、両調査の結果を比べる際の目安としていただきたい（厳密には回答比率の大小によって異なる。）。

(2) 調査対象および調査時期

郵送配布・郵送回収により調査を行なった。

① 調査対象および調査規模

ア 第1回調査

調査対象：住民基本台帳および外国人登録データから、行政区の人口割合で無作為に抽出した京都市在住の20歳以上の市民2,000人

総配布数：2,000 転居先不明等による不着数：48 有効配布数：1,952

回収数：953 回収率（回収数÷有効配布数）：48.8%

質問内容：別添調査票のとおり

イ 第2回調査

調査対象：住民基本台帳及び外国人登録データから、行政区の人口割合で無作為に抽出した京都市在住の20歳以上の市民2,000人

総配布数：2,000 転居先不明等による不着数：47 有効配布数：1,953

回収数：987 回収率（回収数÷有効配布数）：50.5%

質問内容：別添調査票のとおり

② 調査期間

調査期間は表1に示すとおりである。

表1 調査の開始から回収までのスケジュール

項目		第1回調査 (平成18年)	第2回調査 (平成19年)
1	調査票発送	8/5	1/26
2	督促状発送	8/22	2/9
3	回収締め切り(実質)	8/31	2/26

2 集計結果と考察

(1) 回答者の属性

回答者の属性について以下に示す。

① 各調査で利用可能な属性情報

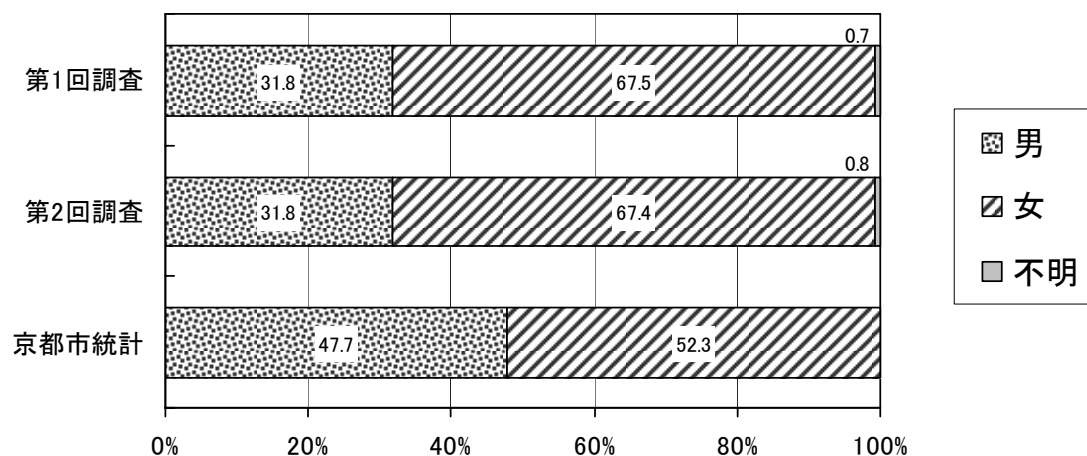
各調査で利用可能な属性情報を下表に示す。

表2 各調査で利用可能な属性情報

属 性	第 1 回調査	第 2 回調査	(参考) 母集団 比較用の情報
性別	○	○	京都市統計 H17
年代	○	○	京都市統計 H17
居住区	○	○	京都市統計 H17
職業	○	○	
世帯人数	○	○	京都市統計 H17
町内会加入の有無	○	○	
住居形態	○	○	

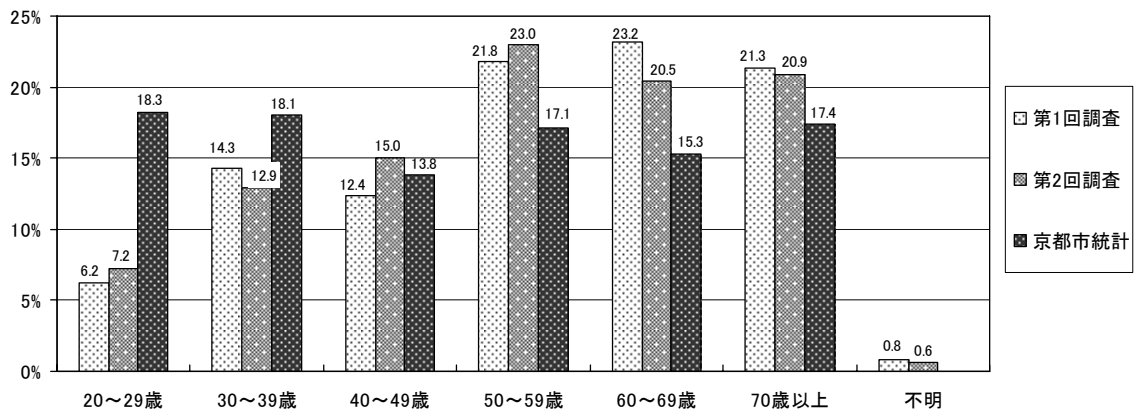
② 属性の集計及び比較結果

ア 性別〔第1回:Q11 第2回:Q9.1〕



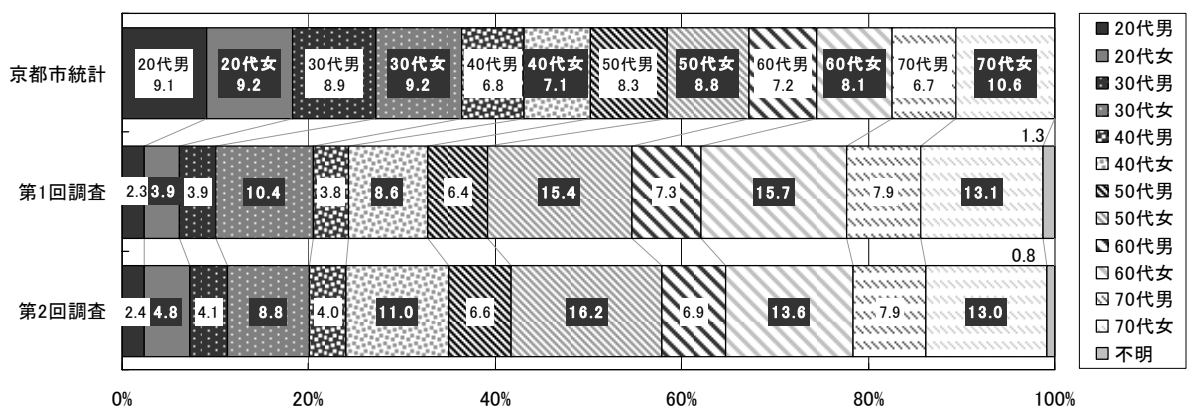
- 第1回調査（以下、「第1回」という。）と第2回調査（以下、「第2回」という。）で、ほぼ同一の傾向となった。
- 両調査（以下、第1回と第2回を総じていう場合、「両調査」という。）では、女性の割合が多く、男性の割合が少ない。要因としては、ごみ出しを行っている方などに回答を依頼したことが反映されている可能性があると考えられる。

イ 年齢〔第1回:Q12 第2回:Q9.2〕



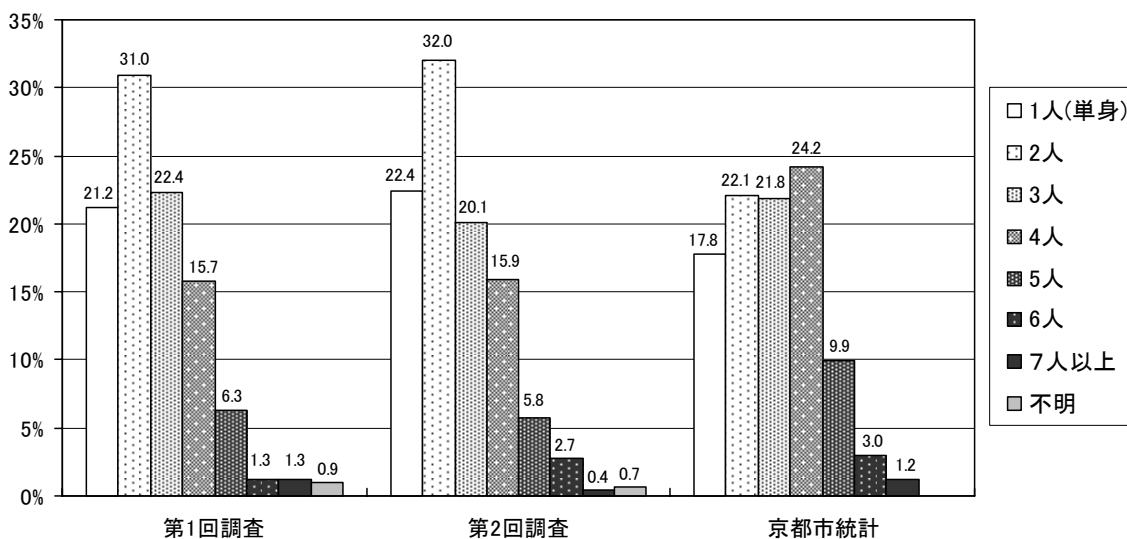
- 第1回と第2回では同様の傾向となっている。ただし、30代と40代の比率を比較すると、第1回では30代、第2回では40代の方が高く、また、50代と60代を比較すると、第1回では60代、第2回では50代が高いという違いがある。
- 京都市人口と比べて、50代以上の回答率が高く、30代以下の回答率が低い。一つの要因としては、ごみ出しを行っている方などに回答を依頼したことなどが反映されている可能性があると考えられる（20代の方に配布をしたが、世帯の中で同居している親の方が回答された場合など）。
- また、 χ^2 独立性検定結果でも、両調査で母集団に有意な変化があったとはいえない。

ウ 性別×年齢



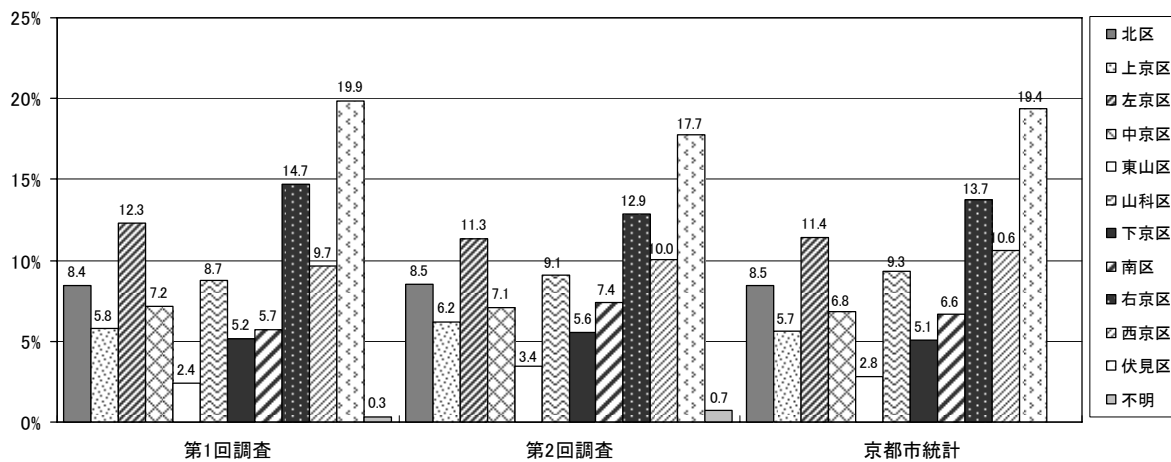
- 本調査はどの年代を見ても女性の回答者が多く、特に50歳代以上の女性の比率が高い。
- 詳細に見ると、第2回では40代女性の比率が増えているなどの差異はあるものの、 χ^2 独立性検定結果によると、両調査で母集団に有意な変化があったとはいえない。

エ 世帯人数〔第1回:Q13 第2回:Q9.3〕



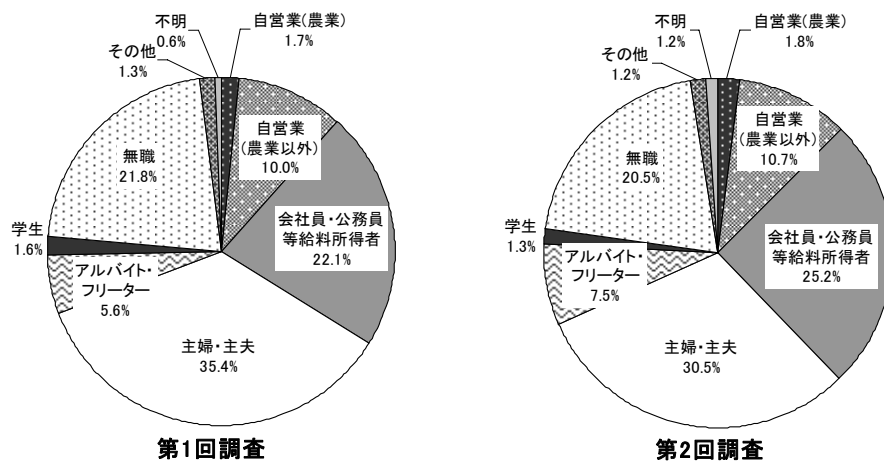
○ 本調査では、京都市統計に比べ1人および2人の世帯が多く、4人以上の比率が小さかった。両調査で大きな差はない。

オ 居住区〔第1回:Q14 第2回:Q9.4〕



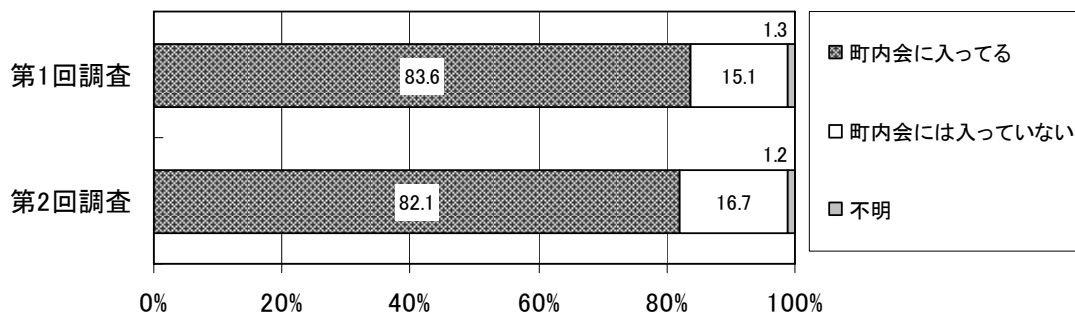
○ 区ごとに標本抽出を行っており、回収結果も京都市の人口分布と同様となっている。

カ 職業〔第1回:Q15 第2回:Q9.5〕



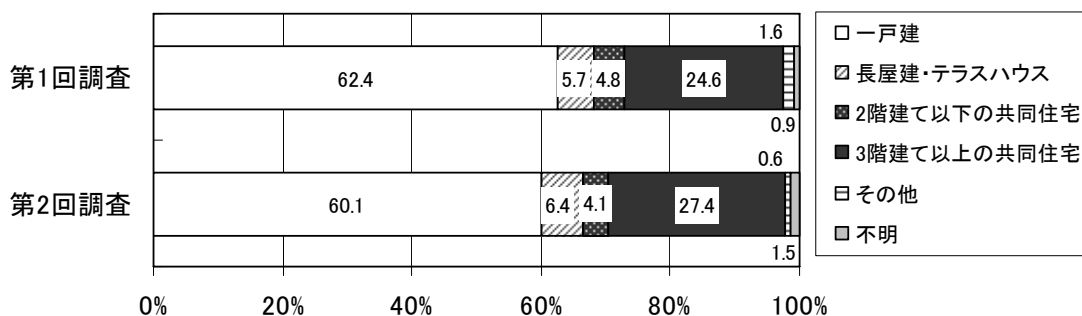
- 個別に見ると第1回に比べ、第2回では、主婦・主夫の比率が低下し、アルバイト・フリーターなどの職業が若干多くなっている。(個別に比率の検定を行なえば、前者の変化は5%有意となる。)
- χ^2 独立性の検定では、両調査で母集団に有意な変化があったとはいえない。

キ 町内会加入有無〔第1回:Q17 第2回:Q9.6〕



- 町内会加入の有無は、両調査で同様の比率であった。

ク 住居形態〔第1回:Q16 第2回:Q9.7〕

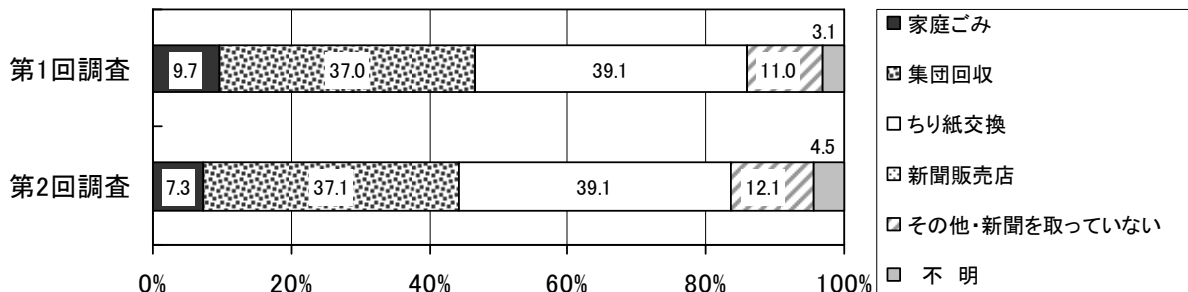


- 住居形態は、両調査で概ね同様の構成比率であった。

(2) 自宅でのごみの出し方等

以下に、自宅でのごみの出し方及びごみの家庭内での保管等についての集計結果を示す。

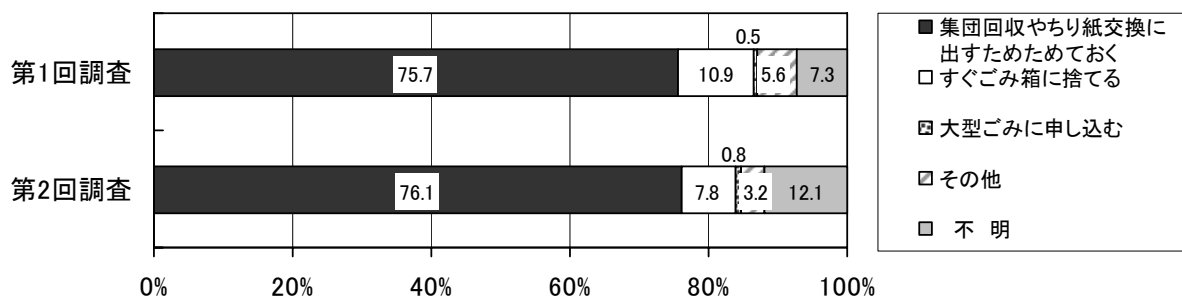
① 読み終わった新聞の排出先〔第1回:Q1 第2回:Q1〕



- χ^2 独立性の検定では回答比率に変化があったとはいえないが、「家庭ごみに出す」の比率のみに着目し比率の差を検定すると、第2回では低下しているといえる。

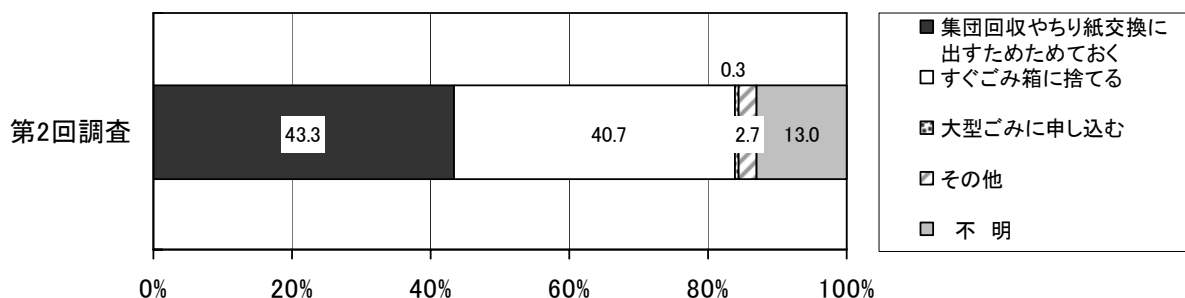
② 不要な古紙への対応方法〔第1回:Q1.2 第2回:Q1.2〕

ア 雑誌



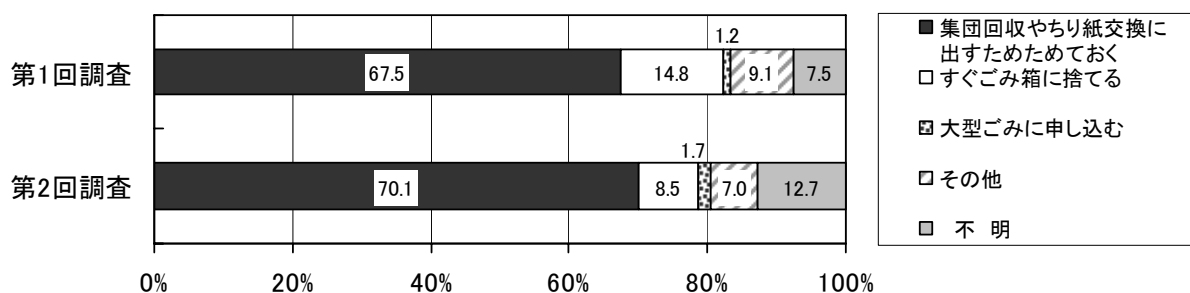
- 第2回で、次に示す「雑紙」の設問を加えた影響か、他の設問と比較して「不明」が大きく増加している。(比率の差の検定でも有意な差といえる。)
- 「不明」分を除いて計算した場合、「集団回収やちり紙交換に出すためためておく」比率が増加している。(81.7%→86.5%)

イ 雑紙



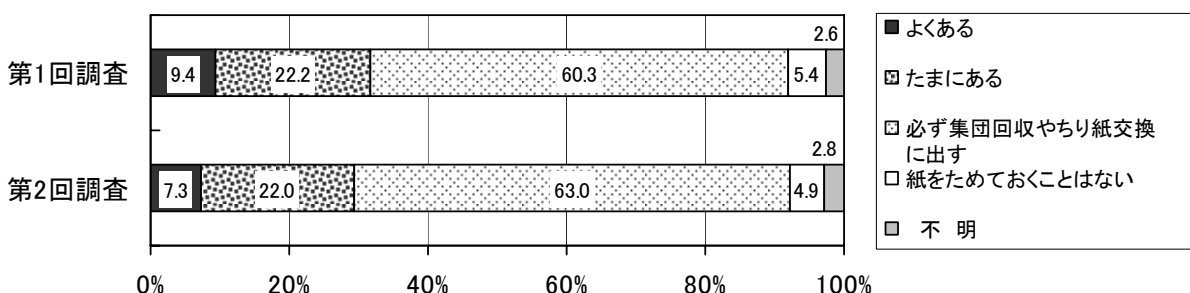
- 雑紙については第2回しか質問していない。雑誌・段ボールに比べて、「ためておく」比率は低くなっている。

ウ 段ボール



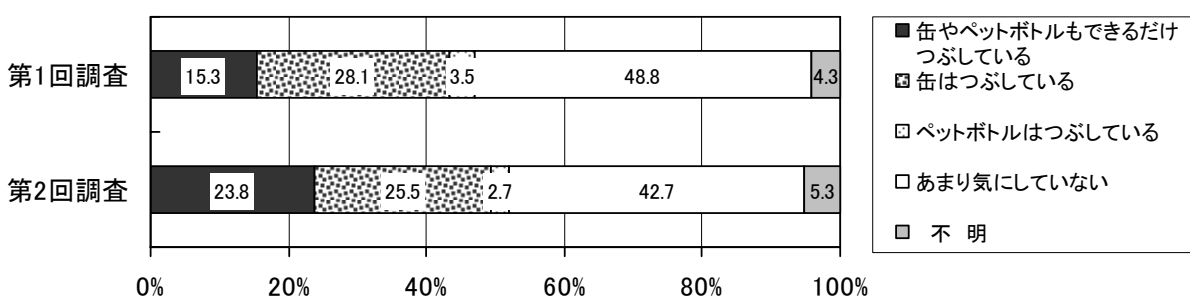
- 段ボールは雑誌の場合より、「集団回収やちり紙交換に出すためためておく」の比率が高く（ただし有意な差ではなかった）、「すぐごみ箱に捨てる」比率が低い（有意）。（回答全体での比率の変化は雑誌、段ボールいずれも有意であった。）
- ①雑誌と同じ原因か、「不明」が大きく増加している。
- ①雑誌と同様に、「不明」分を除いて計算した場合、「集団回収やちり紙交換に出すためためておく」比率が増加している。（72.9%→80.3%）

③ ためておいた古紙（雑誌・雑紙や段ボール）を家庭ごみに捨てることがあるか 〔第1回:Q1.3 第2回:Q1.3〕



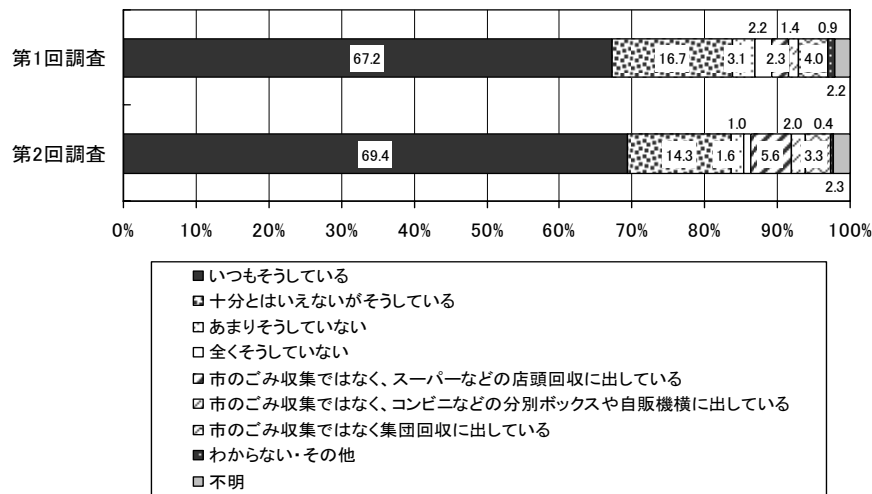
- χ^2 独立性の検定では、比率の変化は有意とならなかった。
- 個別の回答肢の比率に着目すると、第2回では、ためておいた古紙を家庭ごみに捨てることによくあるとする比率が低下（有意）し、必ずリサイクルに出す比率が増加（ただし有意な差ではなかった）した。

④ 缶・びん・ペットボトルはつぶしてから捨てているか〔第1回:Q1.4 第2回:Q1.4〕



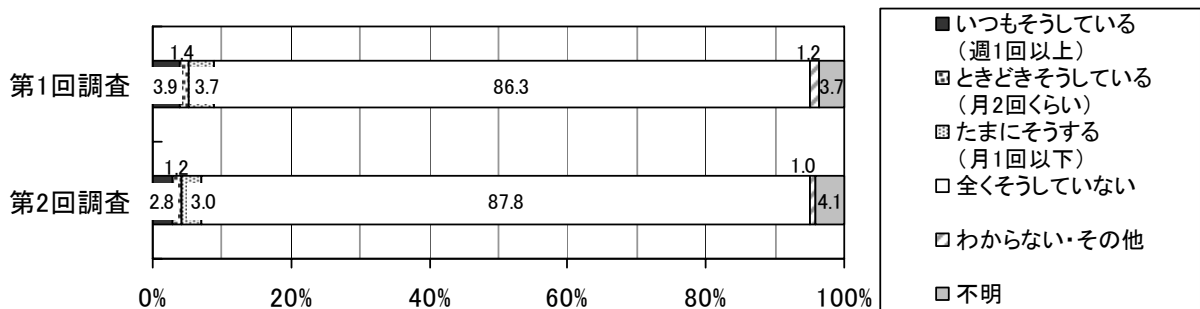
- 第2回では、できるだけつぶしてから捨てるとする比率が、大幅に増加した。

⑤ 缶・びん・ペットボトルは、きちんと分別して、決められたごみの日に出しているか
〔第1回:Q1.5 第2回:Q1.5〕



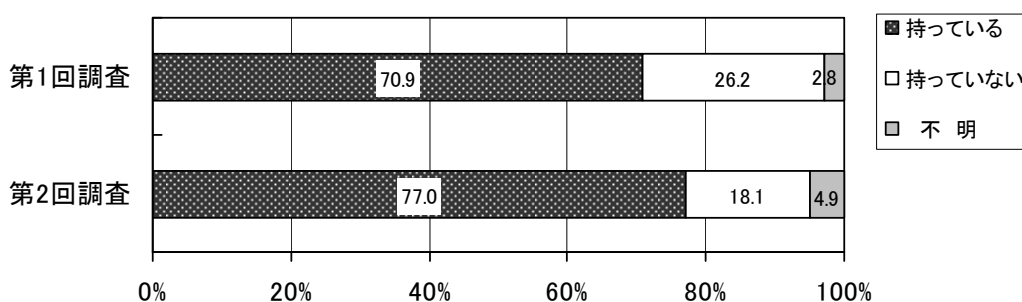
- リサイクルについては、店頭回収に出している比率は 2.3%から 5.6%へと 2 倍以上に増加している（有意）。
- 統計的に有意な差ではないものの、資源ごみへの分別排出を「十分とはいえないが分別している」比率が低下し、「いつもそうしている」比率が上昇している。

⑥ 家で出たごみを、袋に入れて家の外（コンビニ・街頭や駅のごみ箱・職場・学校など）のごみ箱に捨てることがあるか〔第1回:Q1.6 第2回:Q1.6〕



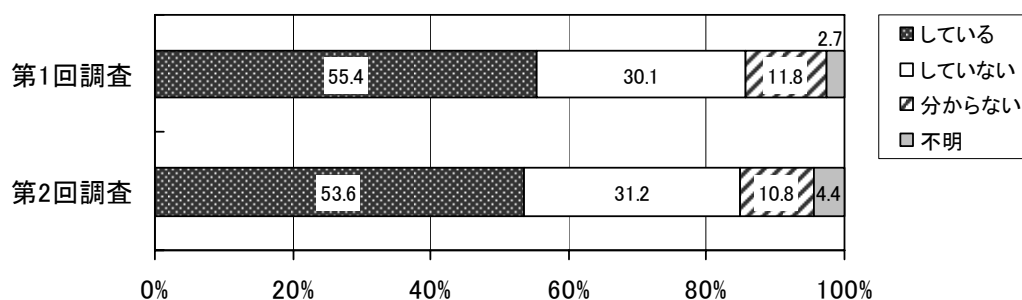
- 両調査で回答比率に有意な変化はなく、「そうしている」比率はむしろ低下している。

⑦ 使い捨てでない買い物袋を持っているか〔第1回:Q10.1 第2回:Q7.1〕



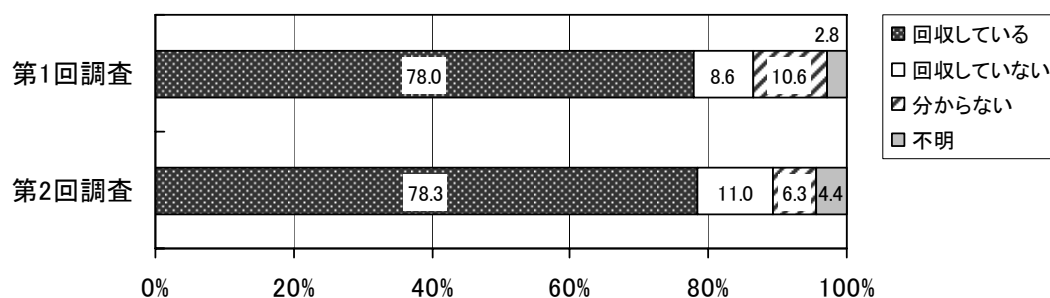
- 「使い捨てでない買い物袋を持っている」比率は 1 割程度増加している。

⑧ 地域では古紙の集団回収をしているか〔第1回:Q10.2 第2回:Q7.2〕



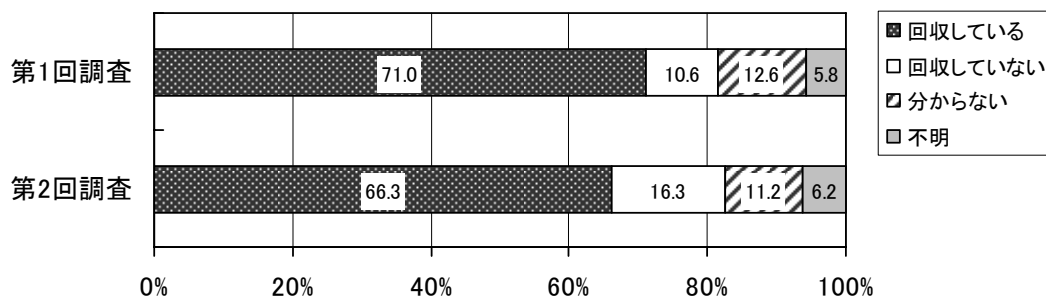
- 個人の行動ではなく、資源回収への参加し易さの前提的な条件について尋ねた質問であり、基本的には変化していない。

⑨ 利用する店舗での店頭回収の実施状況（トレー）〔第1回:Q10.3 ア 第2回:Q7.3.1〕



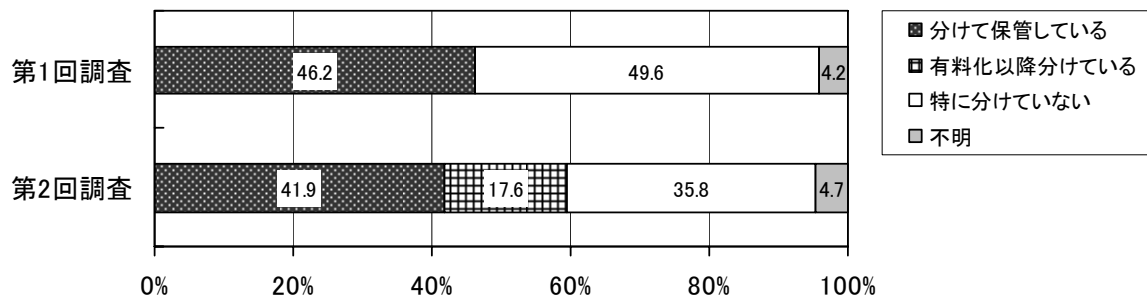
- 個人の行動ではなく、資源回収への参加のし易さの前提的な条件について尋ねた質問であるが、両調査での回答比率は異なる結果となった（有意）。
- 「回収している」比率には変化はないものの、「分からない」が減って（有意）、「回収していない」とする比率が増えて（有意ではない）おり、店頭回収の実施の有無への関心が高まった可能性が示唆される。

⑩ 利用する店舗での店頭回収の実施状況（紙パック）〔第1回:Q10.3 イ 第2回:Q7.3.2〕



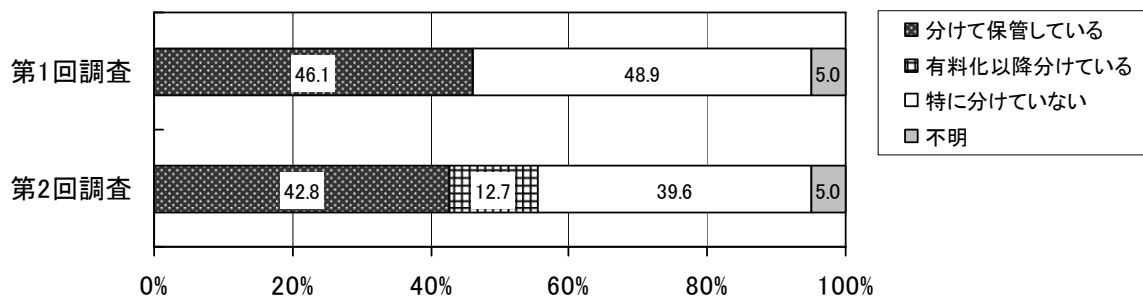
- 紙パックについても、回答比率に有意な変化が見られた。
- トレーと異なり「分からない」および「不明（無回答）」の比率はほぼ同一であるのに、「回収していない」比率が増加し、「回収している」比率が減少している。

⑪ 不要物の分別保管（トレー）〔第1回:Q10.4 ア 第2回:Q7.4.1〕



- 本設問では、「有料化以降分けている」という回答肢を第2回では設けている。
- 2割強の回答者が、新たにトレーを分別保管するようになったと回答している。
- ただし、（導入以前から）「分けて保管している」比率は低下しており、缶・びん・ペットボトルの設問の結果を参考に推測すると、有料指定袋導入以前よりも以後の方が、より徹底して分別保管するようになった回答者が（導入以前から）「分けて保管している」ではなく、「有料化以降分けている」を選択された可能性も考えられる。
- トレーと次問の紙パックを比較すると、「分けて保管している」比率は導入前後によらず、ほぼ同一であるが、「有料化以降分けている」比率については、トレーの方が大きい。

⑫ 不要物の分別保管（紙パック）〔第1回:Q10.4 イ 第2回:Q7.4.2〕



- 本設問では「有料化以降分けている」という回答肢を第2回では設けている。
- 1割強の回答者が、新たに紙パックを分別保管するようになったと回答している。
- ただし、トレーと同様に（導入以前から）「分けて保管している」比率は若干低下（ただし両側5%有意ではなかった）しており、トレーと同様の回答傾向のあったことが考えられる。
- トレーとの比較（差異）については上述のとおり。

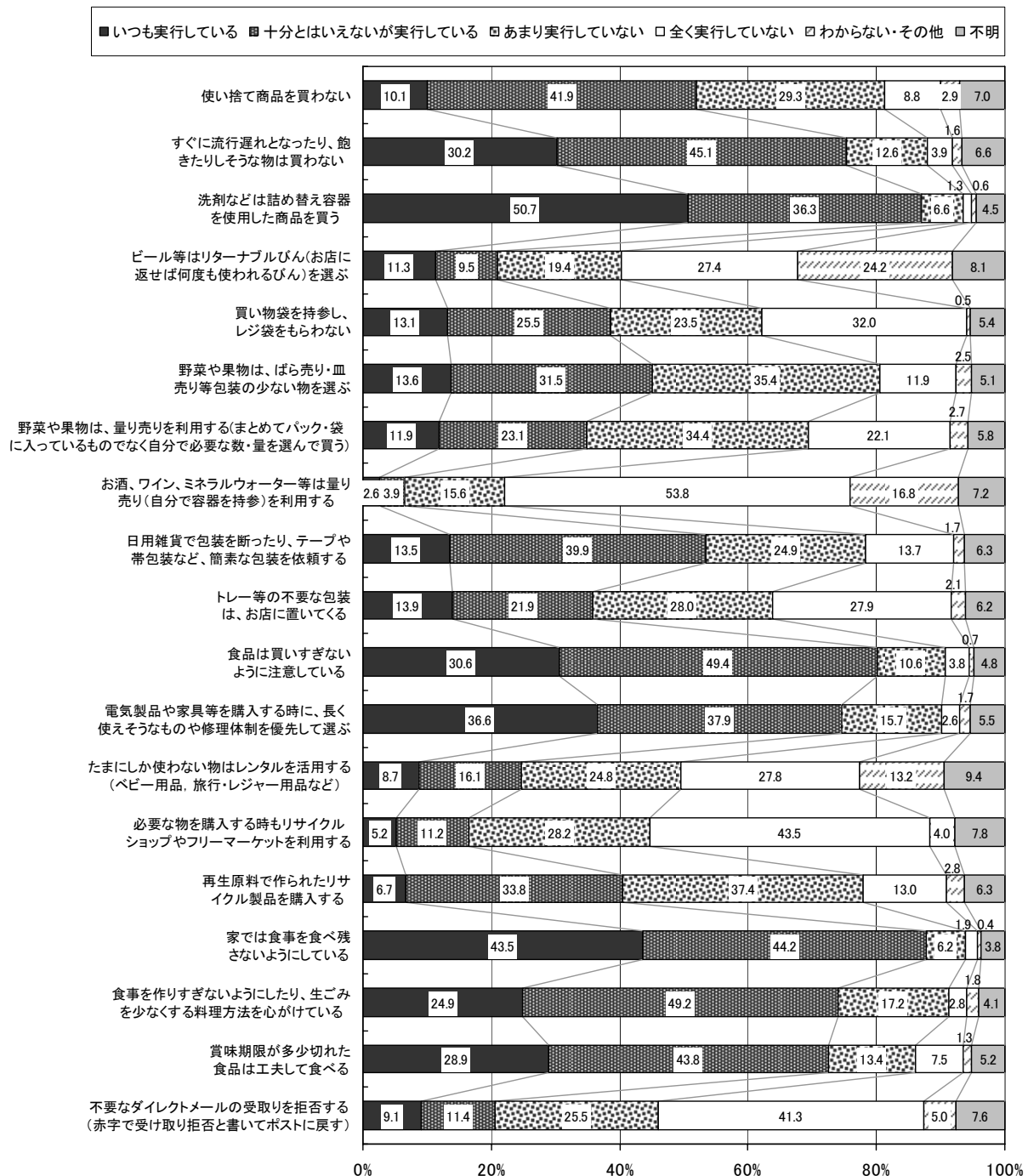
(3) 3R (リデュース(発生抑制)・リユース(再使用)・リサイクル) 行動

「日常の買い物などでの2R (リデュース・リユース) 行動」及び「リサイクルやリユース 行動」について、様々な行動に対する実施程度を第1回と第2回で同じ形式(一覧表)で質問した。

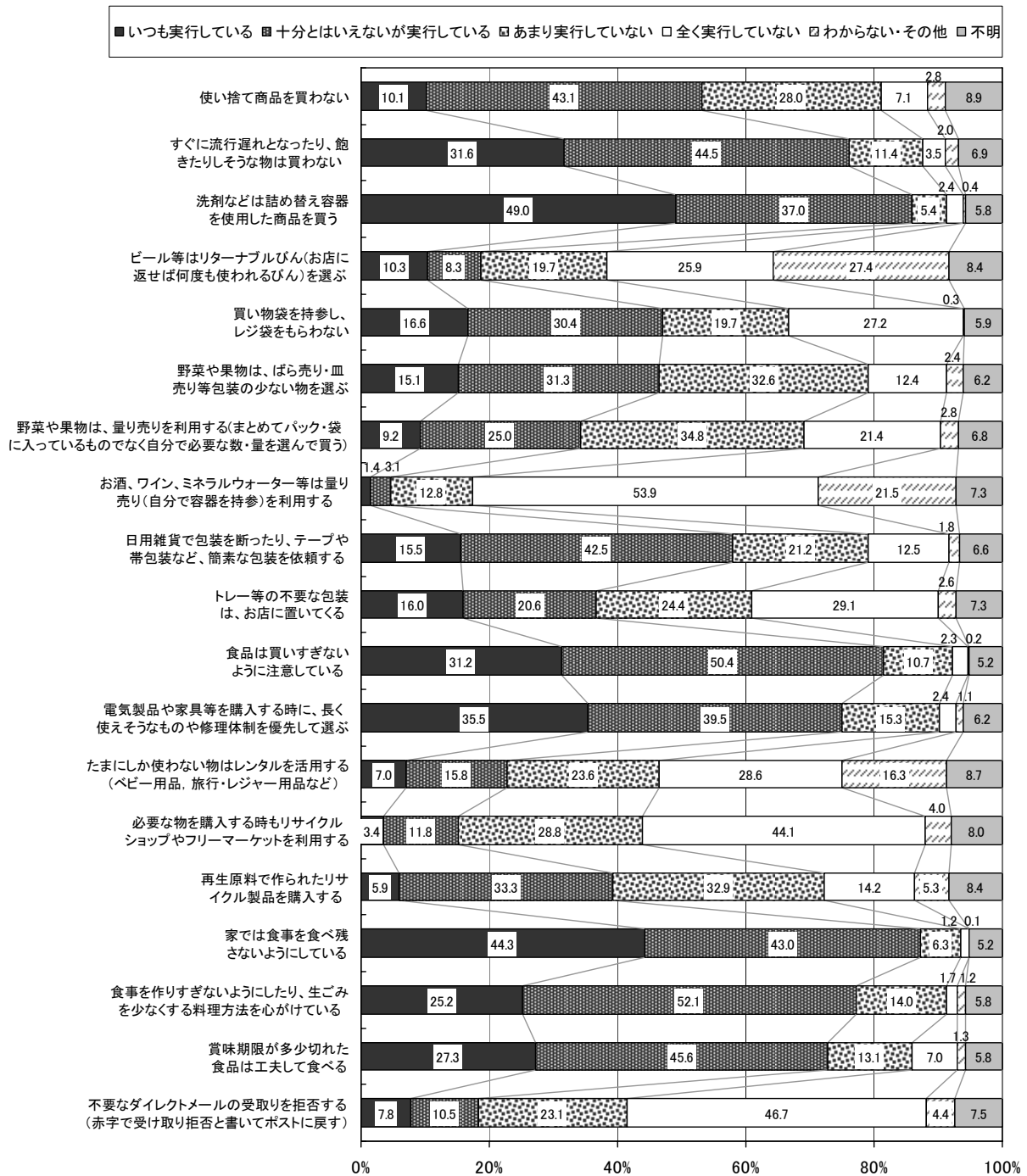
このため、以下では「2R」と「リサイクル(一部リユースを含む)」について、両調査の結果を①及び②にそれぞれに示した後、両調査間で変化がみられた行動を③で抽出した。

① 日常の買い物などでの2R行動〔第1回:Q2 第2回:Q2〕

【第1回調査】

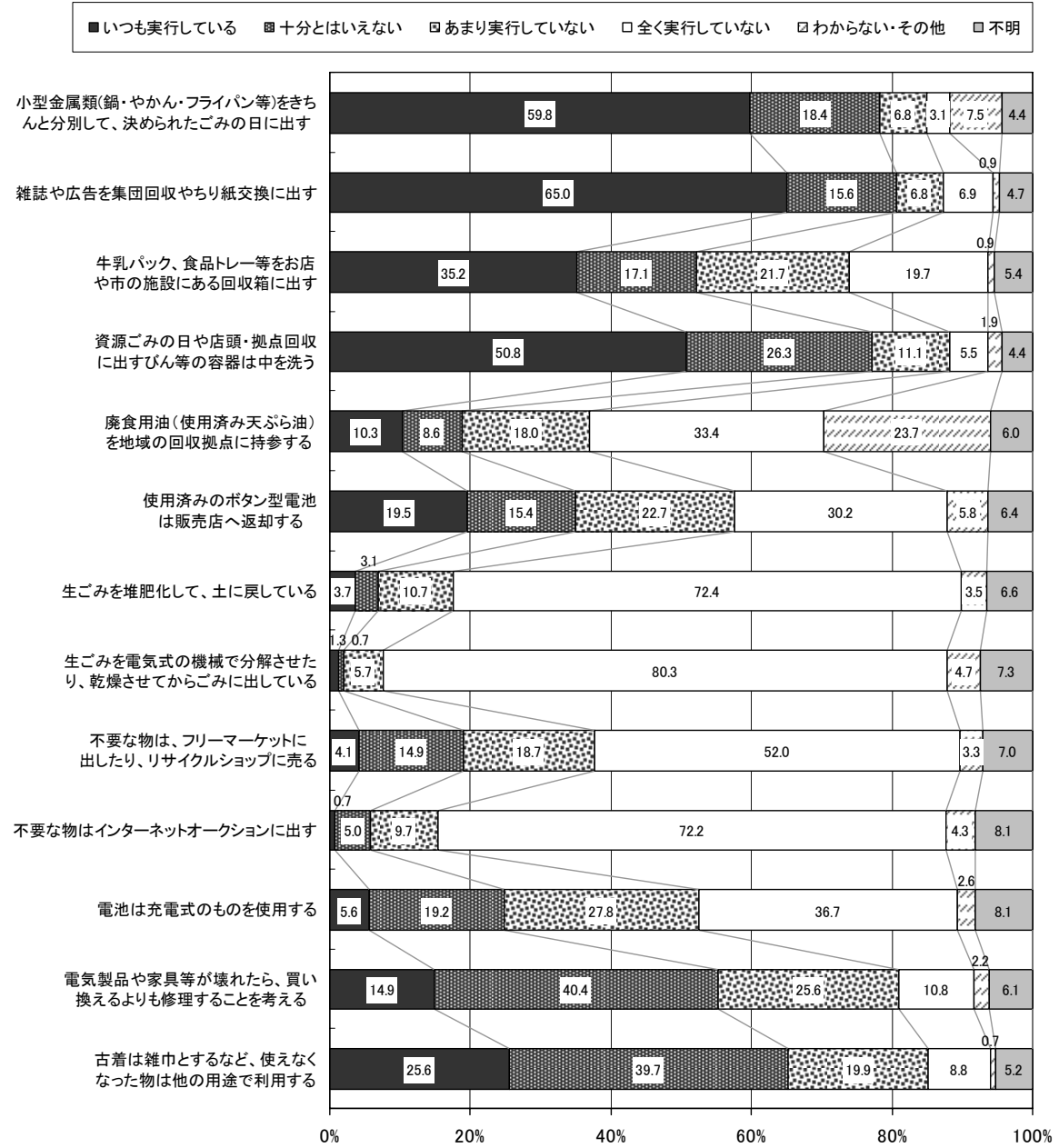


【第2回調査】

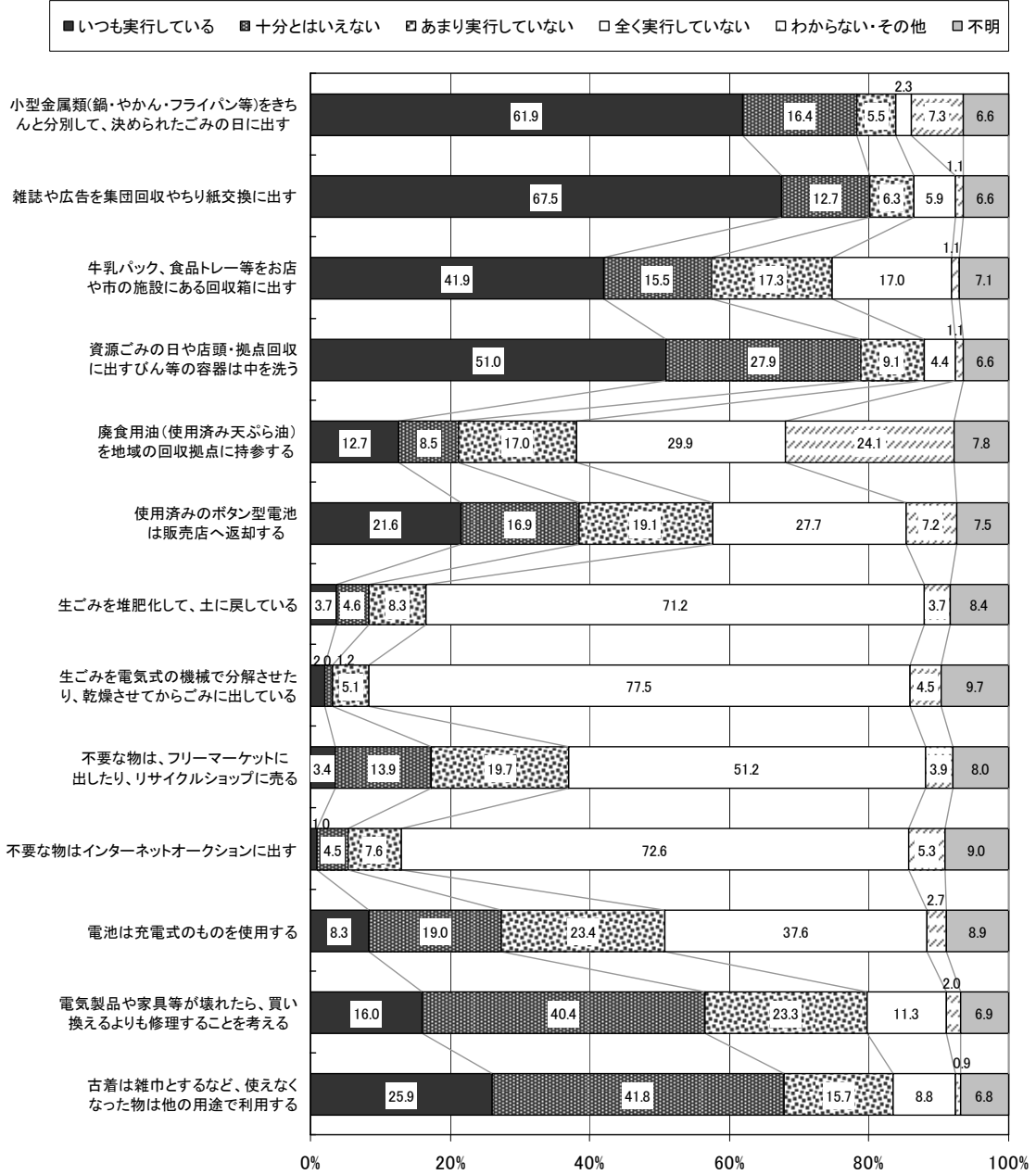


② リサイクルやリユース行動〔第1回:Q3 第2回:Q3〕

【第1回調査】



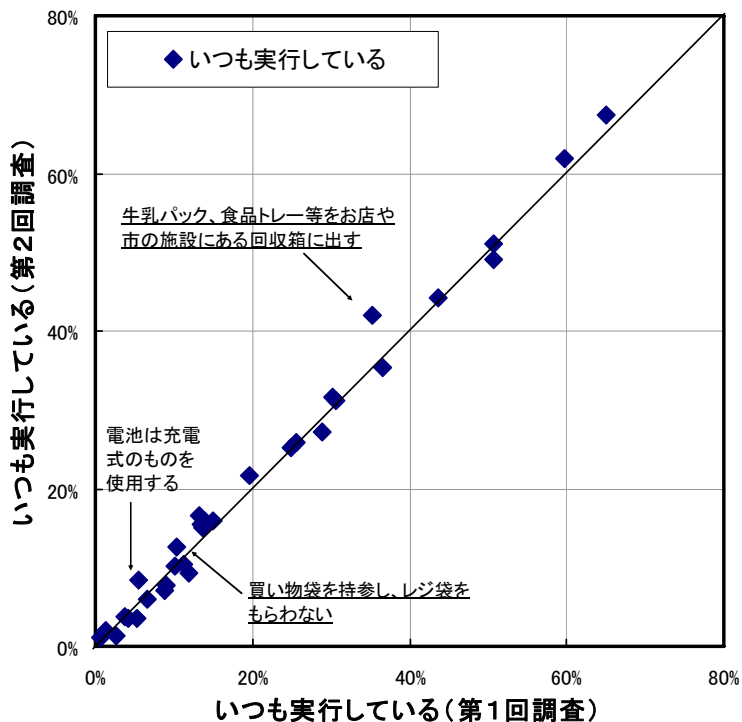
【第2回調査】



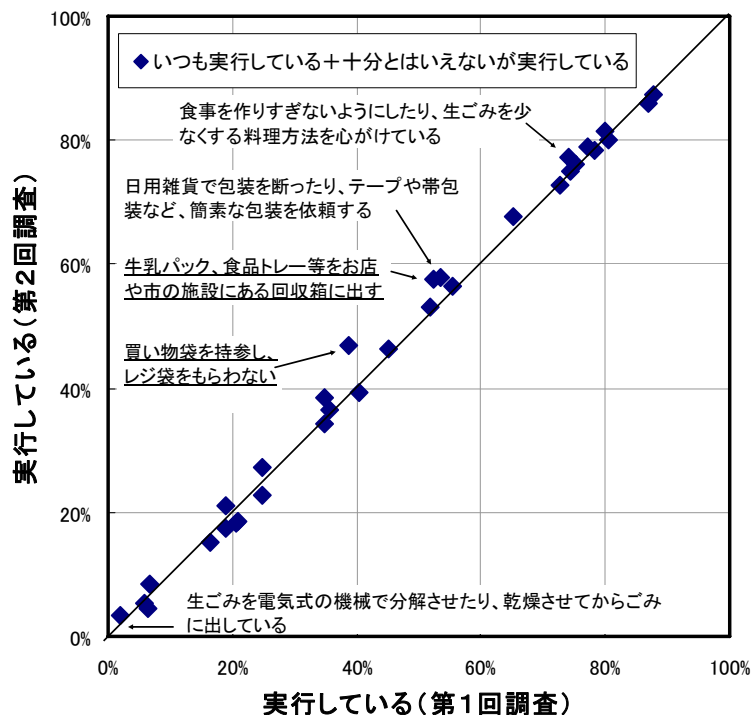
③ 3R行動の変化

各行動について、本調査では「いつも実行している」比率、「いつも実行している比率」+「十分ではないが実行している比率」を、それぞれ散布図として整理した。

3R行動—いつも実行している



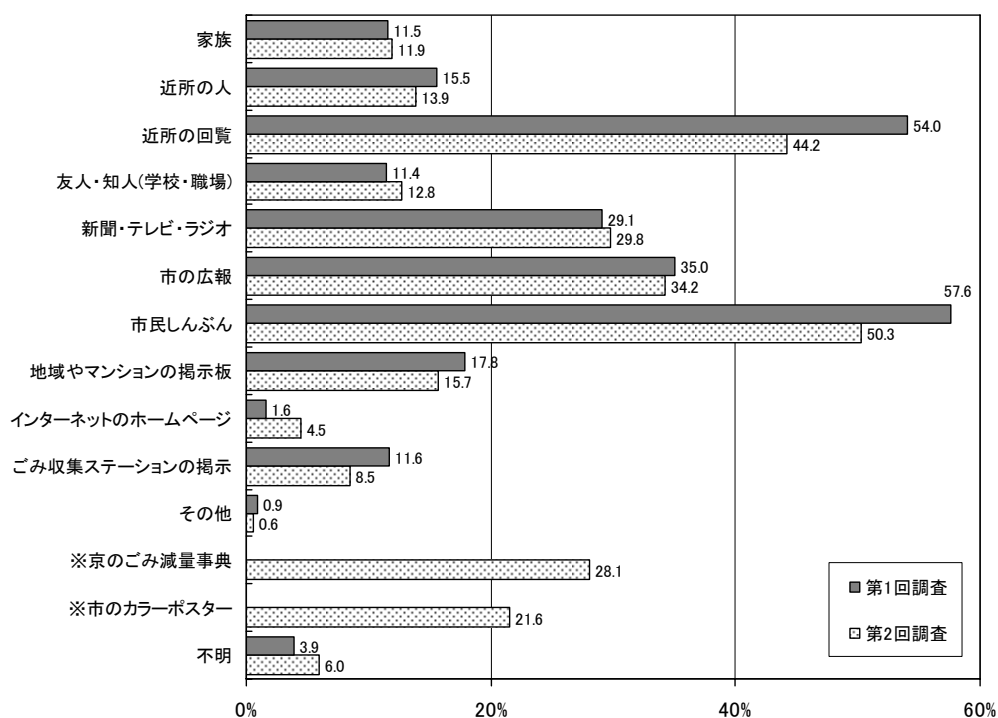
3R行動—いつも実行している+十分ではないが実行している



- 前ページの2つの図は、横軸を第1回、縦軸を第2回とし、設問ごとに「いつも実行している」(左上図)または「いつも実行している+十分とはいえないが実行している」(左下図)の回答を並べることにより、両調査の変化の状況を示したものである。
- 両図の斜めの直線上は、第1、2回とも、同じ比率だったことを表し、斜め線の左上は「実行している」が第2回の方が高くなり、斜め線の右下は「実行している」が第2回の方が低くなったことを表している。
- 2回の調査の当該回答比率の差を検定して有意であった行動は、具体的な内容も示した。また、回答比率全体の変化も有意であった行動には下線を付した。
- 「いつも実行している」比率については、各行動の中で、相対的に大きく上昇した行動をみると、「牛乳パック、食品トレー等をお店や市の施設にある回収箱に出す」の増加（7%増）が最も大きかった。
- 「いつも実行している」と「十分ではないが実行している」と合わせた比率については、「買い物袋を持参し、レジ袋をもらわない」の増加（8%増）が最も大きかった。
- （5）⑧（30ページ）のごみの出し方や減量行動の変化の有無の全体的な質問で「集団回収、ちり紙交換、店頭回収などを活用するようになった」や「包装の少ない商品を買うなど、買い物時の考え方が変わった」とする割合が高かったが、それに対応する具体的な行動の変化が示されたといえる。
- 「再生原料で作られたリサイクル製品を購入する」については、回答比率全体の変化は有意となった。しかし、これは、分からない・その他や不明が増えたことなどによると思われる、実行比率が増加したわけではない。

(4) ごみに関する情報の入手方法

① 京都市のごみ分別ルールについて〔第1回:Q4.1 第2回:Q4.1 複数選択回答制〕

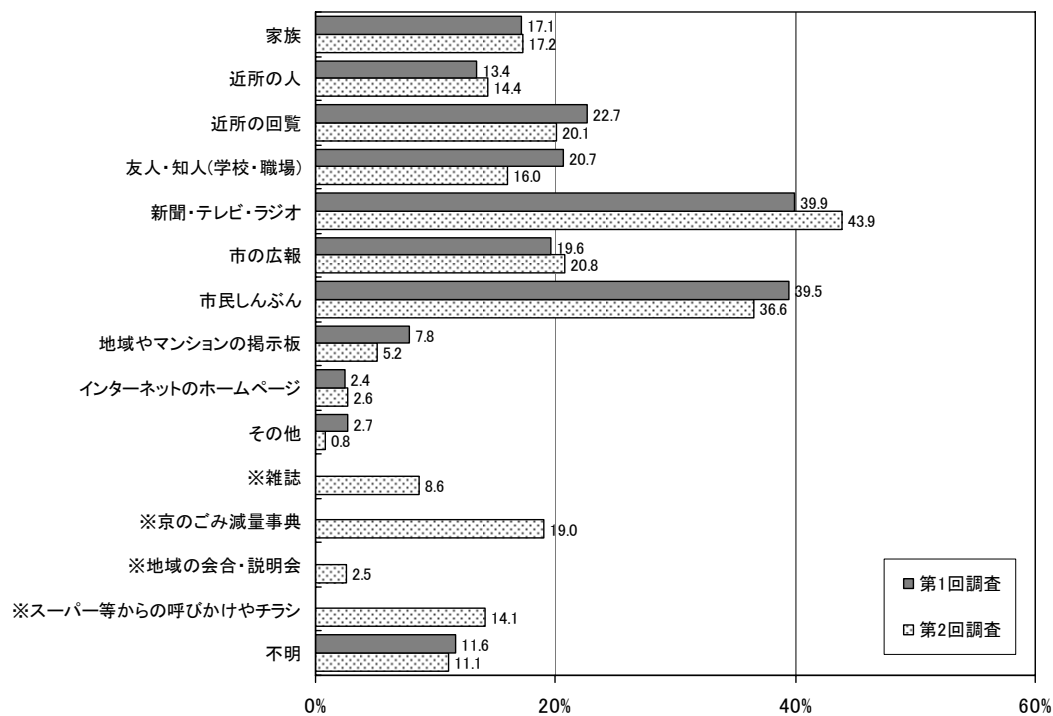


※ その他以降の「京のごみ減量事典」および「市のカラーポスター（京都市のごみの出し方ルール）」は第2回において追加した回答肢である。

- 「近所の回覧」や「市民しんぶん」の比率は、第2回でも引続き上位2位ではあったが、第1回と比較して低下した。
- 近所の回覧は、平成18年4月から9月頃にかけて順次実施しており、また、市民しんぶんについても、平成18年3月から毎月有料化に関する記事を掲載していた。比率が低下した原因は、第2回の選択肢に、平成18年9月に全戸配布した「京のごみ減量事典」と「カラーポスター」を加えたことによる影響とも考えられる。
- 一方、「京のごみ減量事典」は約3割の回答者が、「市のカラーポスター」は約2割の回答者が、既に参考としているという結果となった。

② ごみを減らす買い物の工夫に関する情報について

〔第1回:Q4.2 第2回:Q4.2 複数選択回答制〕



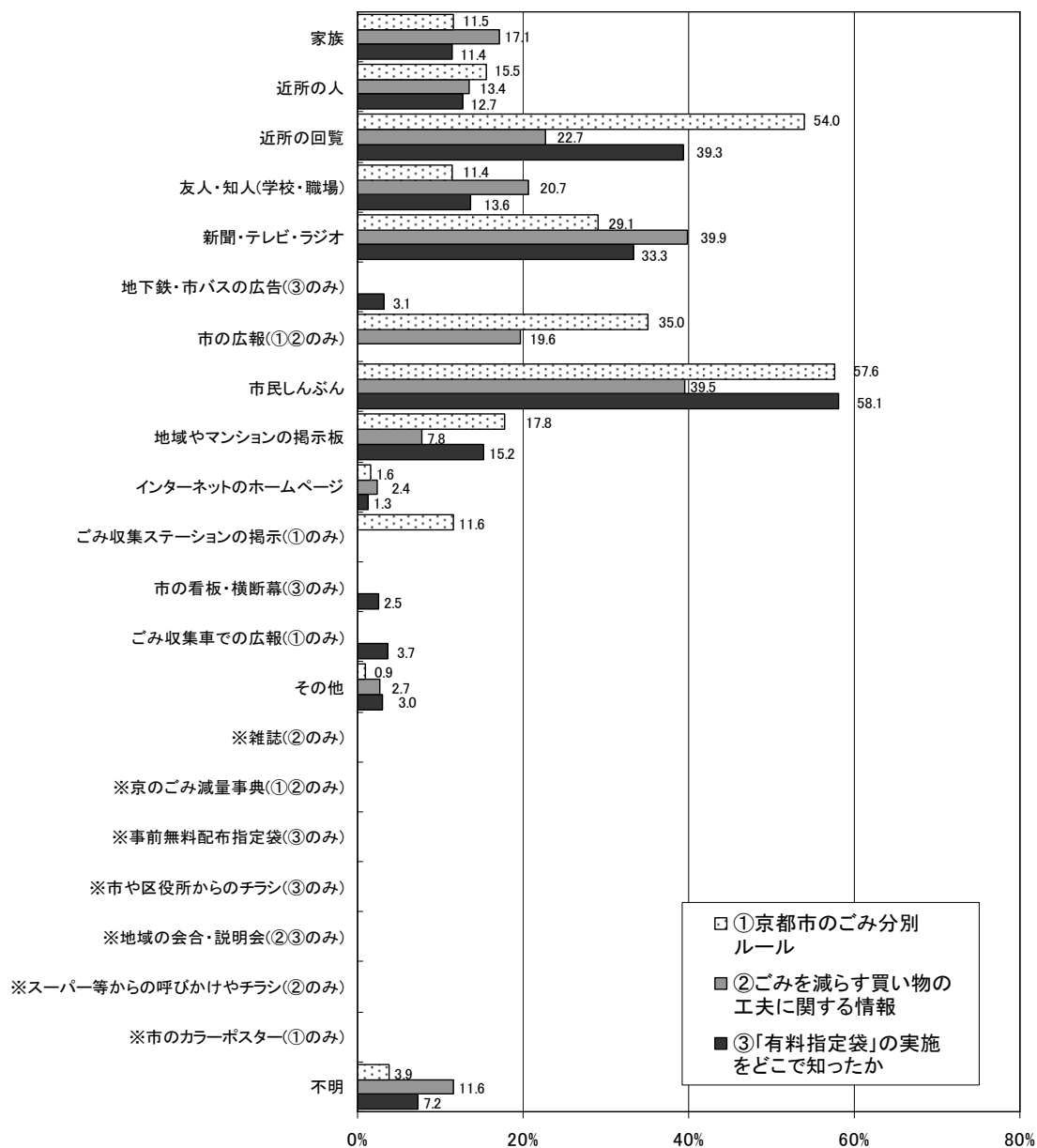
※ その他以降の「雑誌」、「京のごみ減量事典」、「地域の会合・説明会」および「スーパー等からの呼びかけやチラシ」は第2回において追加した回答肢である。従って、「地域の会合・説明会」および「スーパー等からの呼びかけやチラシ」は、第1回では、理屈としては「その他」に含まれることとなるが、実際には「その他」として具体的内容を記述するのが面倒であったなどの事情により、「その他」として具体的に挙げなかった回答者も多いと考えられる。

- 約2割の回答者が、ごみを減らす買い物の工夫について「京のごみ減量事典」を参考としているという結果となった。この比率は、新聞・テレビ・ラジオ（以下、マスコミという。）や市民しんぶんと比べれば低いものの、他の情報源と比べても遜色がなく、有効な伝達手段の一つとして機能していると考えられる。
- また、「スーパー等からの呼びかけやチラシ」の比率も、家族、近所の人、友人・知人に匹敵する比率となっており、行政だけでなく、小売業等の事業者の取組も有効であることがうかがえる。

③ 情報の種類ごとの情報源の違いの比較

〔第1回:Q4.1.2,Q5.2 第2回:Q4.1.2,Q5.2 複数選択回答制〕

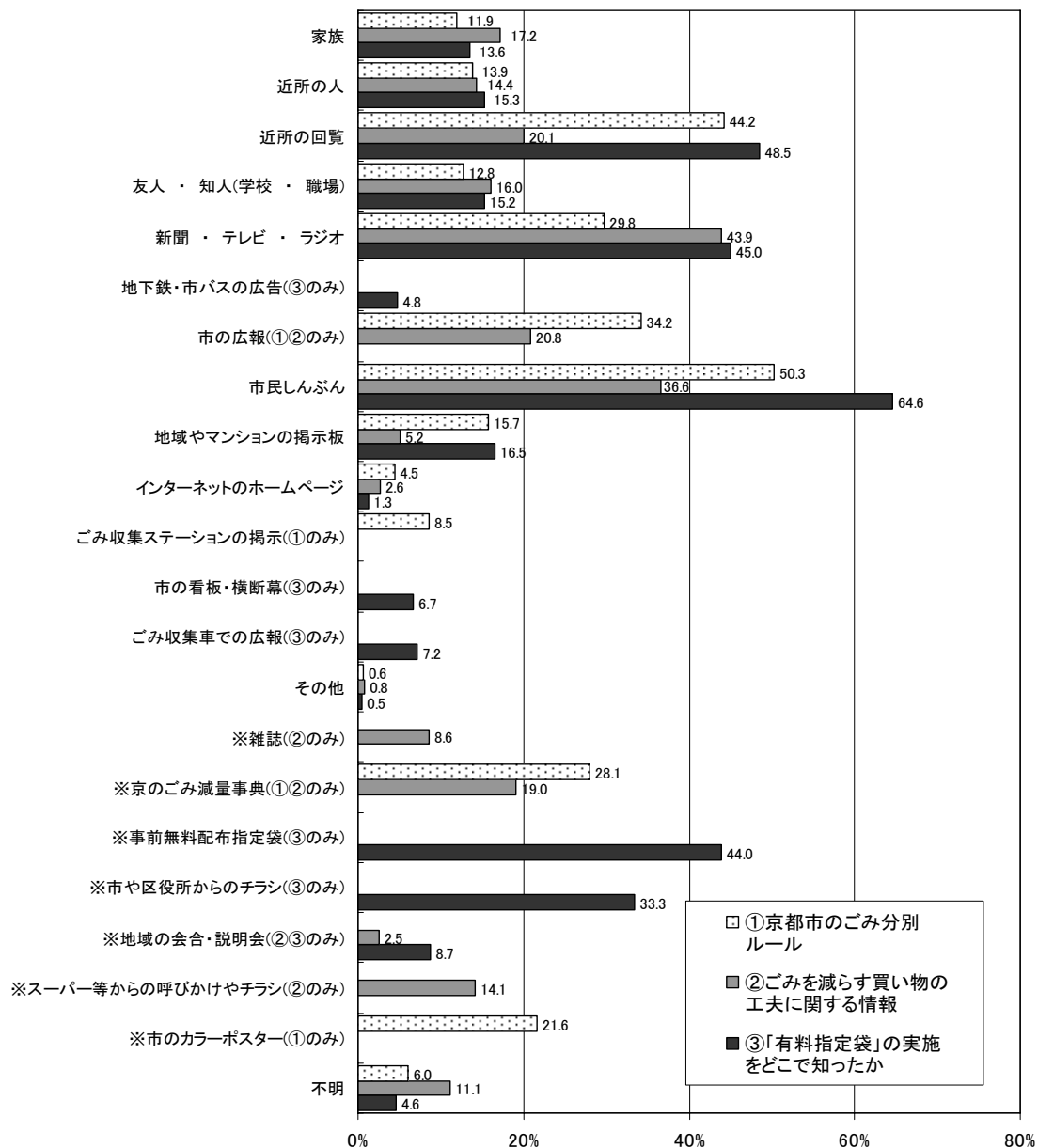
【第1回調査】



注) ③「『有料指定袋』の実施をどこで知ったか」の設問については後述している。

※ その他以降の「雑誌」、「京のごみ減量事典」、「事前無料配布指定袋」、「市や区役所からのチラシ」、「地域の会合・説明会」、「スーパー等からの呼びかけやチラシ」および「市のカラーポスター」は第2回において追加した回答肢である。

【第2回調査】



注) ③ 「『有料指定袋』の実施をどこで知ったか」の設問については後述している。

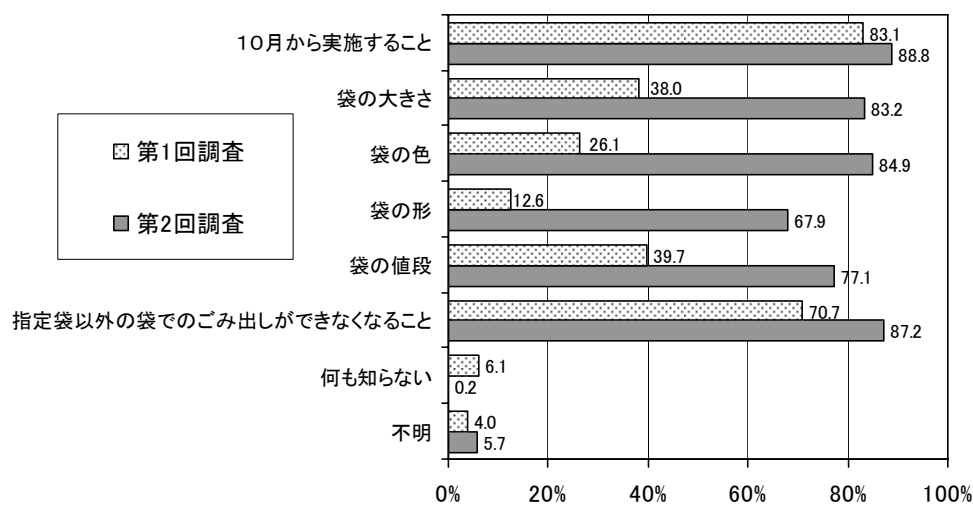
※ その他以降の「雑誌」、「京のごみ減量事典」、「事前無料配布指定袋」、「市や区役所からのチラシ」、「地域の会合・説明会」、「スーパー等からの呼びかけやチラシ」および「市のカラーポスター」は第2回において追加した回答肢である。

- 情報の種類ごとに、情報源に違いがあることが分かる。
- 市民しんぶんとマスコミはいずれの情報の種類でも、おおむね3割以上の回答者が参考としている。
- 第1回と第2回で共通の回答肢については、情報の種類ごとの情報源の違いの傾向は、おおまかには同様であった。ただし、「有料指定袋の実施」については、マスコミ、近所の回覧などで変化がみられる。

(5) 有料指定袋制の実施に関連する内容

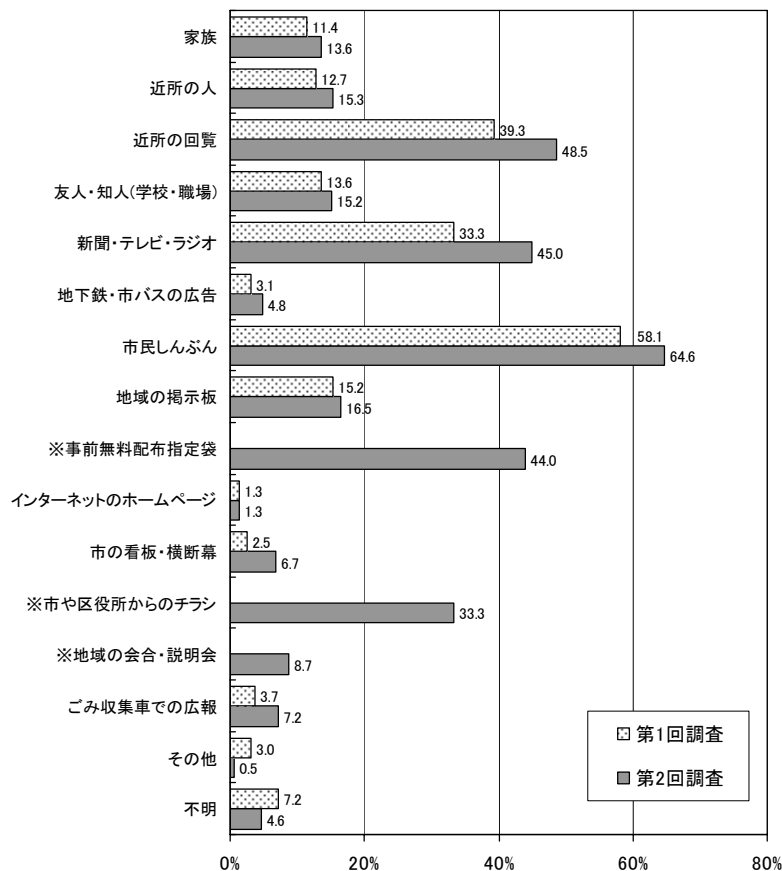
① 10月から実施した「有料指定袋」について知っていること

〔第1回:Q5.1 第2回:Q5.1 複数選択回答制〕



- 第1回では、「10月からの実施」及び「指定袋以外ではごみ出しができなくなること」以外の項目についての認知度は必ずしも高くなかったが、第2回では、全ての事項について認知割合が上昇し、いずれも概ね8割以上の認知度となっている。
- 「何も知らない」回答者は、第2回では、ほとんどいない結果となった。

② 「有料指定袋」の実施についてどこで知ったか
〔第1回:Q5.2 第2回:Q5.2 複数選択回答制〕

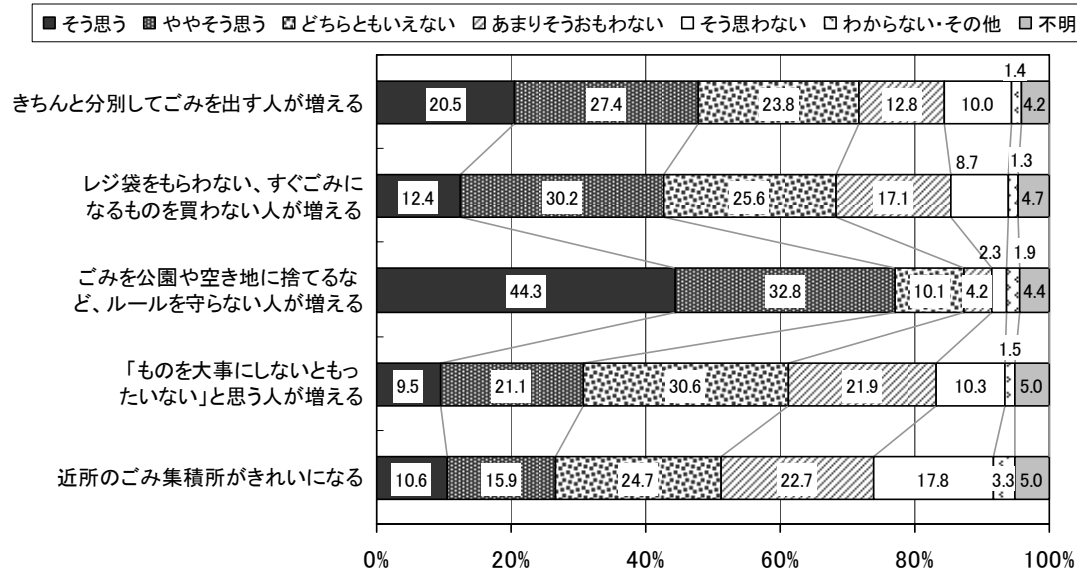


※ 「事前無料配布袋」および、その他以降の「市や区役所からのチラシ」、「地域の会合・説明会」は第2回において追加した回答肢である。従って、「市や区役所からのチラシ」および「地域の会合・説明会」は、第1回調査では、理屈としては「その他」に含まれることとなるが、実際には「その他」として具体的内容を記述するのがご面倒であったなどの事情により、「その他」として具体的に挙げられなかった回答も多いと考えられる。

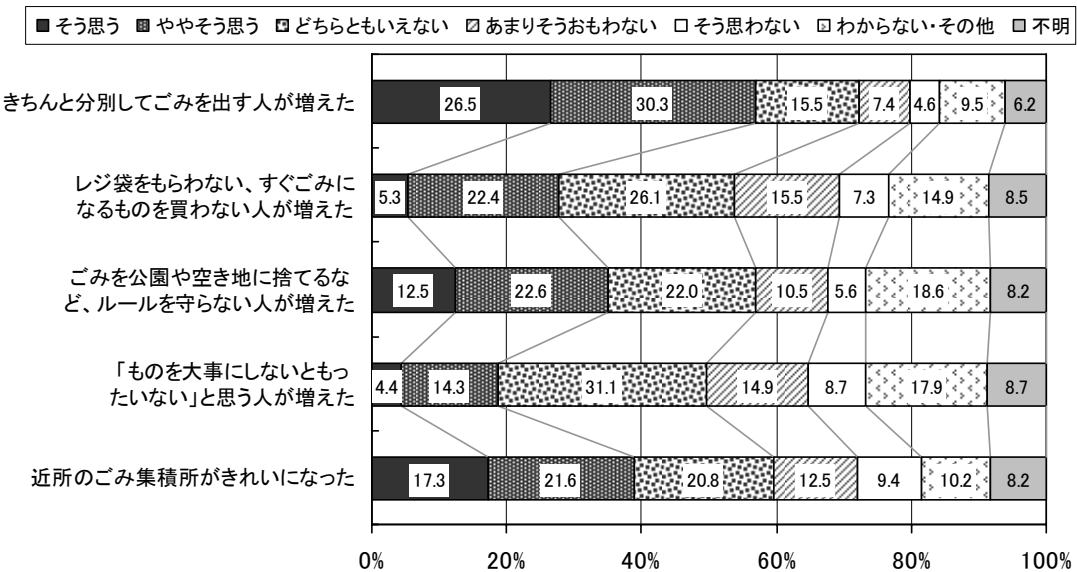
- 両調査で共通の回答肢については、第2回の方がほぼ全てで回答比率が高くなっている。(ただし、比率の差が有意とはいえないものもある。)
- 「市民しんぶん」は第1, 2回ともに6割近くと高く、またマスコミおよび近所の回覧の比率が第2回で増大した。直前になって報道が盛んになったことや、地域コミュニティの協力が大きかったことによる結果であるといえる。
- 予想されるように、「事前無料配布指定袋」によって認知されたとする比率も高い。
- 「市や区役所からのチラシ」も1/3程度の方が挙げられており、有効であったことが分かる。

③ 「有料指定袋」導入前後の制度に対する印象の変化〔第1回:Q5.3 第2回:Q5.7〕

【第1回調査】



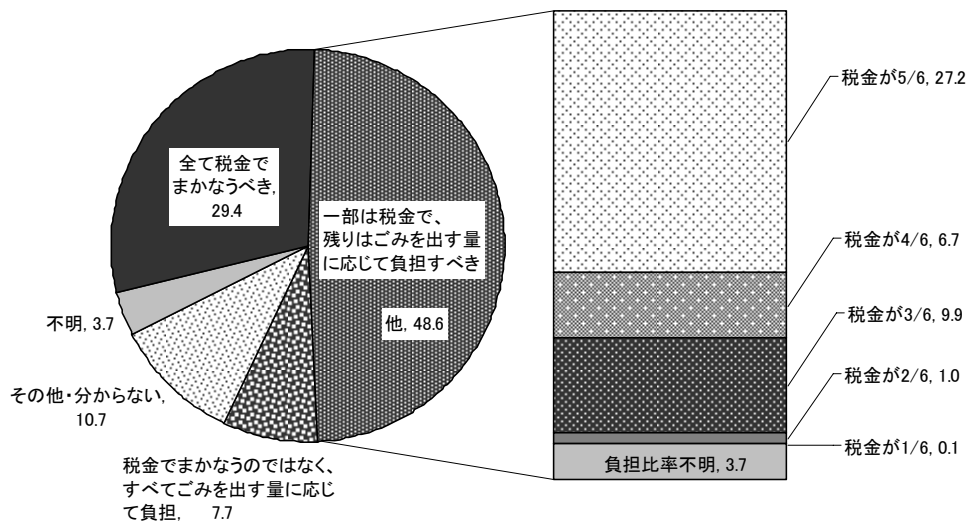
【第2回調査】



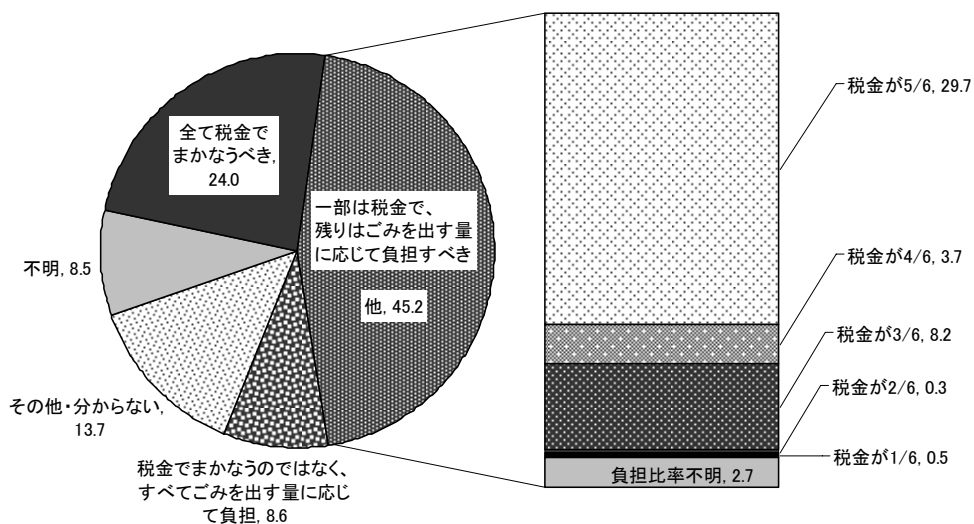
- 有料指定袋制による効果・影響についての市民のイメージは導入前後で大きな変化があった。
- 導入前には「ごみを公園や空き地に捨てるなどルールを守らない人が増えると思う」という懸念を持つ人の割合は5割近くであったのに対し、導入後では1割強にとどまっている。
- 一方、「きちんと分別してごみを出す人が増える」及び「近所のごみ集積所がきれいになる」と思う人は増加しており、指定袋の効果は身近に実感されているものと考えられる。
- ただし、「レジ袋をもらわない、すぐにごみになるものを買わない人が増える」及び『「ものを大事にしないともったいない』と思う人が増える」と思う比率は低下している。(※)
- 全ての設問に共通している傾向として「わからない」の比率も大きく増加しており、現時点では、普段の生活からは他者も含めた全体的な状況をうかがい知ることが難しいという結果を表しているのではないかと考えられる。(特に※の2つは他者の行動を直接観察しなればうかがい知ることができない。他の3つの行動は、他者を直接観察せずとも結果を把握することができる。)

④ 処理費用の負担割合〔第1回:Q4.5 第2回:Q5.8〕

【第1回調査】

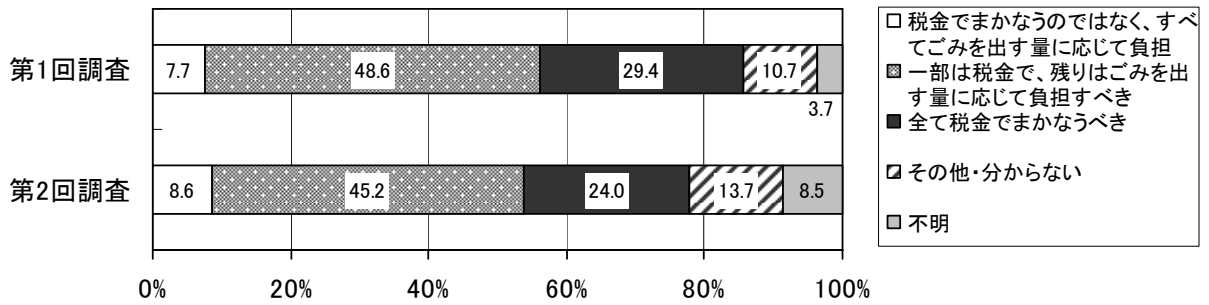


【第2回調査】



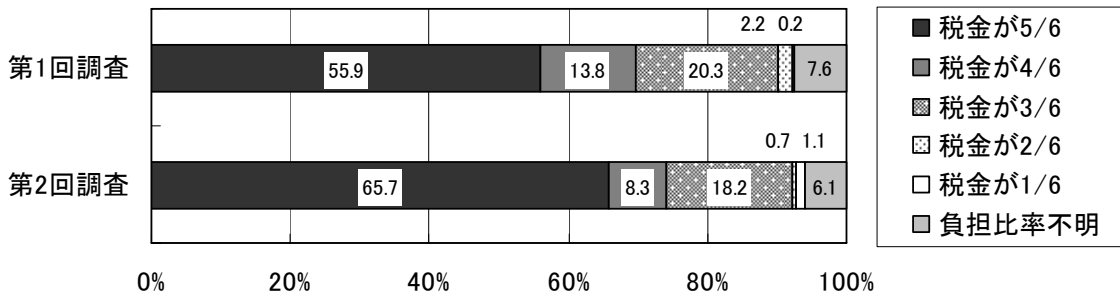
- 家庭ごみの処理費用について、「一部を税金で、残りはごみを出す量に応じて負担」すべきという比率がおよそ半分程度となった。
- 第1, 2回を比較すると、「全て税金でまかなうべき」とする比率が低下し、「不明」の比率が上昇した。
- また、「一部を税金で残りはごみを出す量に応じて負担」すべきとする回答者については、税金負担の割合については、「税金が5/6」（現状の袋料金程度）とする比率が若干増加した。
- 「税金が4/6」とする比率は低下した。「税金が3/6」とする比率も低下しているが、「税金が4/6」の比率の低下に比べれば、その変化は小さい。

ア 処理費用の負担方法



- 「全て税金でまかなうべき」とする比率は29%が24%に減少するとともに、「一部税金で残りはごみを出す量に応じて負担すべき」とする比率も3%程度減少している。

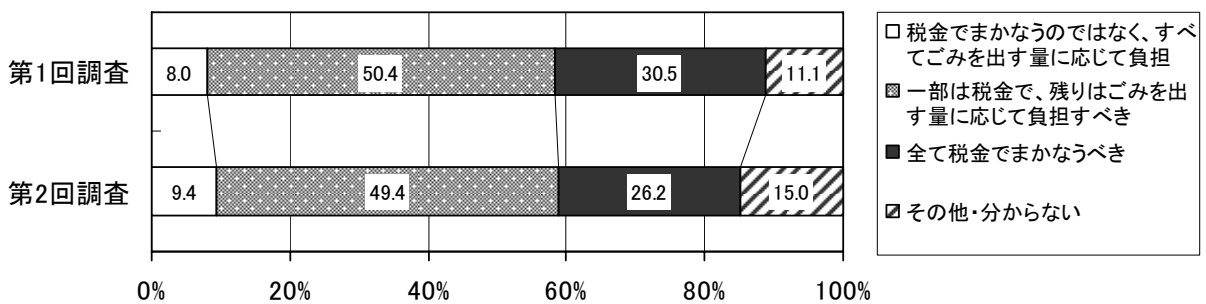
イ 処理費用の一部税金である場合の税金負担の割合



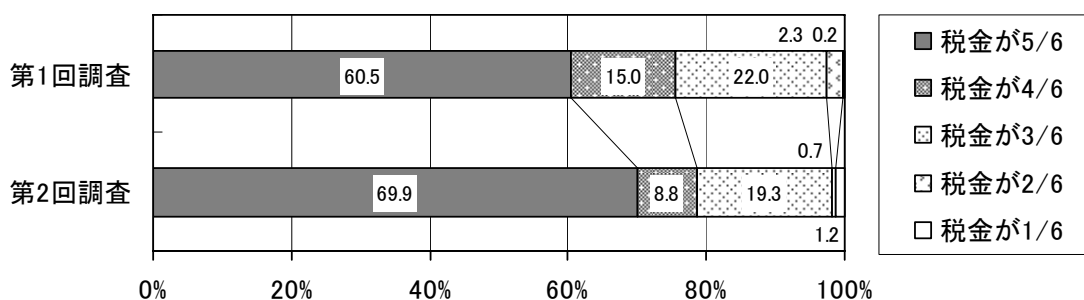
- また、「一部税金で残りはごみを出す量に応じて負担すべき」と回答した方には負担割合を尋ねたところ、「税金が5/6」（現状程度）とする比率が増加していた。

《参考》不明（無回答など）を含めない場合の設問ごとの比較

ア 「処理費用の負担方法」で不明を除いた結果



イ 「処理費用の一部税金である場合の税金負担の割合」で不明を除いた結果



⑤ 指定袋の使用枚数〔第2回:Q5.3 数字記入回答制〕

	家庭ごみ					資源ごみ			
	45 ^{リットル}	30 ^{リットル}	10 ^{リットル}	5 ^{リットル}	合計	45 ^{リットル}	30 ^{リットル}	20 ^{リットル}	合計
平均使用枚数	12.92	13.07	5.06	0.97	31.72	2.6	2.56	2.16	7.28

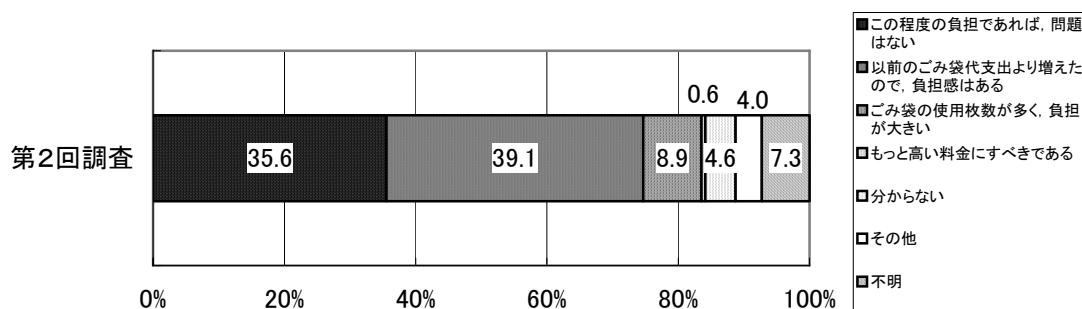
- 有料指定袋制導入後4ヶ月間の排出袋の使用枚数（「無料配布指定袋」の枚数を含む）は、家庭ごみでは45^{リットル}、30^{リットル}の袋に比べ、10^{リットル}、5^{リットル}の袋の平均使用枚数が少ない。
- 資源ごみでは45^{リットル}、30^{リットル}、20^{リットル}の各種類の袋の平均使用枚数は同程度である。
- 家庭ごみの袋の平均使用枚数と資源ごみの袋の平均使用枚数を比較すると、家庭ごみに比べ、資源ごみの使用枚数は少ない。

⑥ 新たに追加を希望する指定袋の大きさ〔第2回:Q5.4 数字記入回答制〕

家庭ごみ		資源ごみ	
5リットル未満	1	5リットル未満	1
5リットル以上～10リットル未満	1	5リットル	20
10リットル以上～20リットル未満	5	5リットル以上～10リットル未満	2
20リットル	236	10リットル	177
20リットル以上～30リットル未満	2	10リットル以上～20リットル未満	3
30リットル以上～45リットル未満	16	20リットル以上～30リットル未満	4
45リットル以上～60リットル未満	14	30リットル以上～45リットル未満	2
60リットル以上～70リットル未満	9	45リットル以上～60リットル未満	1
70リットル以上～80リットル未満	9	60リットル以上～80リットル未満	7
80リットル超～90リットル未満	1	80リットル	1
90リットル以上	3	特になし	597
特になし	569	不明	183
不明	123		

- 現在の「有料指定袋」の大きさ以外の袋で希望する袋の大きさは、家庭ごみ、資源ごみとも、「特になし」が多い。
- 新たに希望する袋の種類としては、家庭ごみでは20リットルの袋の希望が多く、資源ごみでは10^{リットル}の袋の希望が多い。

⑦ 支出についての負担感〔第2回:Q5.5〕



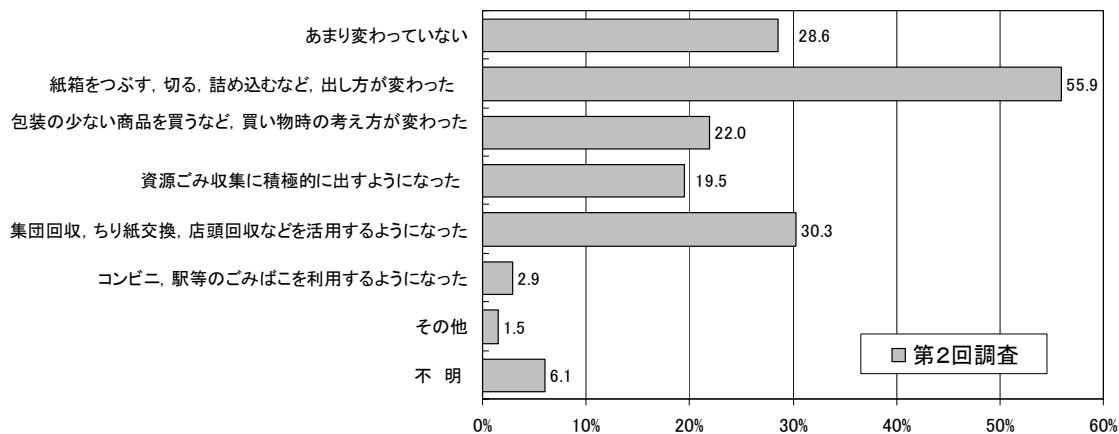
- 有料指定袋のための支出の負担感については、「この程度の負担であれば、問題はない」が4割弱であった。
- 一方、「以前のごみ袋代金支出より増えたので、負担感はある」及び「ごみ袋の使用枚数が多

く、負担が大きい」を合わせた、負担感を感じているとする回答比率の合計は、5割弱であった。

- 平成16年に実施した市民アンケートにおいて、1世帯当たり平均して月400円を支出する場合の負担感を尋ねている。本調査は実感、平成16年調査は仮定の質問であり、また後者は不明（無回答等）比率が高いことから、単純な比較は難しいが、「問題はない」とする割合に対する「負担感がある・大きい」とする割合の比は、約1.7倍（平成16年）から約1.3倍（本調査）となり、二つの割合が接近する方向で低下した。

⑧ ごみの出し方や減量行動の有料指定袋導入後の変化の有無

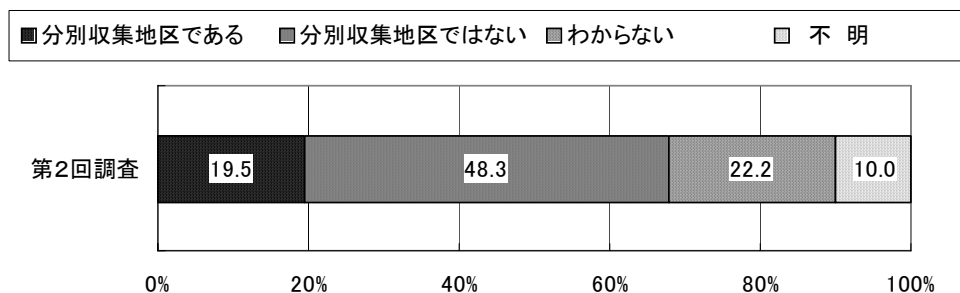
〔第2回:Q5.6 複数選択回答制〕



- 導入後の第2回では、紙箱をつぶすなど「ごみの出し方が変わった」比率が5割以上と最も高く、次いで、「集団回収、ちり紙交換、店頭回収などを活用」が約3割、「包装の少ない商品を買う」及び「資源ごみ収集に積極的に出す」が約2割と有料指定袋の導入を契機として、ごみの出し方・分別や買い物時の考え方が変わったという人が多くなっていた。
- 「あまり変わっていない」の回答は約3割にとどまっている。

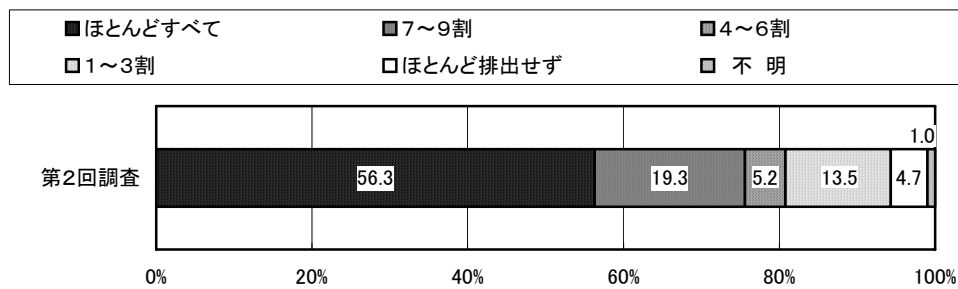
(6) プラスチック製容器包装モデル分別収集について〔第2回:Q5.9〕

① プラスチック製容器包装分別収集地区か



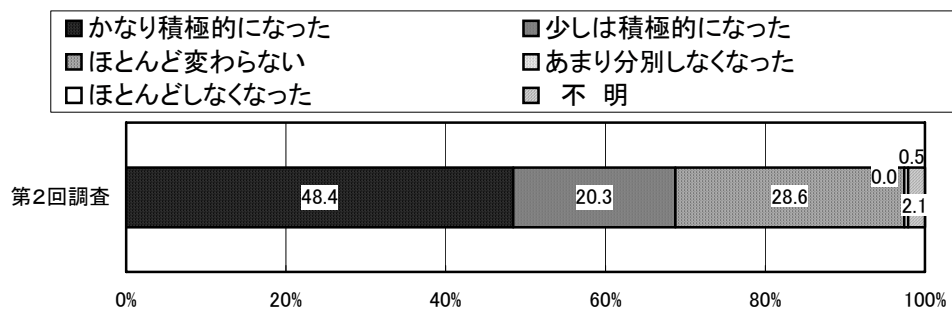
- 「プラスチック製容器包装」の分別収集地区であるという回答が約2割と想定より高くなっている。（なお、平成18年度のプラスチック製容器包装のモデル分別収集は全市の1割で実施している。）

② 『プラスチック製容器包装』の分別収集に排出している割合



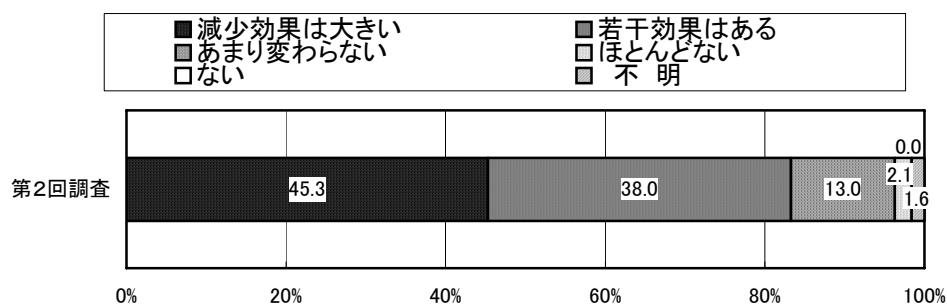
- 「ほとんどすべて」出しているが約 56%と高く、次いで「7~9割」が約 19%であり、「『プラスチック製容器包装』の分別収集地区である」と回答された方のうち、全体の 2/3 の方は分別収集に協力的である。

③ 「有料指定袋」導入前と比べてかなり積極的に分別するようになったか



- 「かなり積極的になった」、「少しは積極的になった」という回答を合わせると半数を超えており、有料指定袋の導入後に積極的に分別するようになった方が多い。

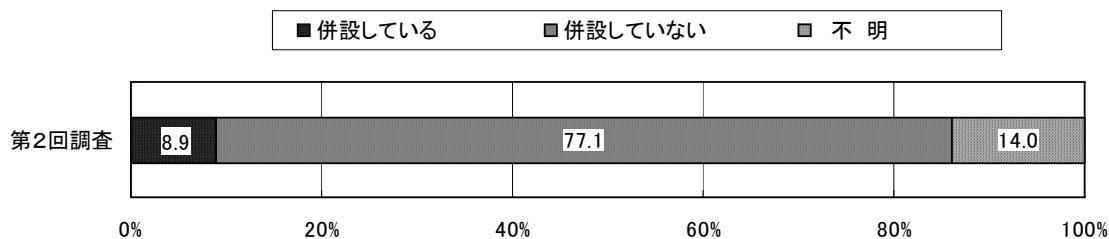
④ 『プラスチック製容器包装』を分別することによる『家庭ごみ』の減少効果



- 「減少効果は大きい」(約 45%)と、「若干効果はある」(約 38%)を合わせた約 83%の回答者が減少効果があると回答している。

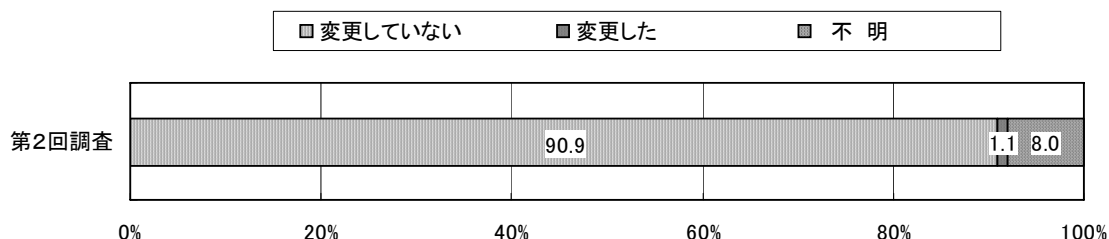
(7) 店舗・工場等の事業所との併設状況〔第2回:Q9.8〕

① 事業所の併設状況



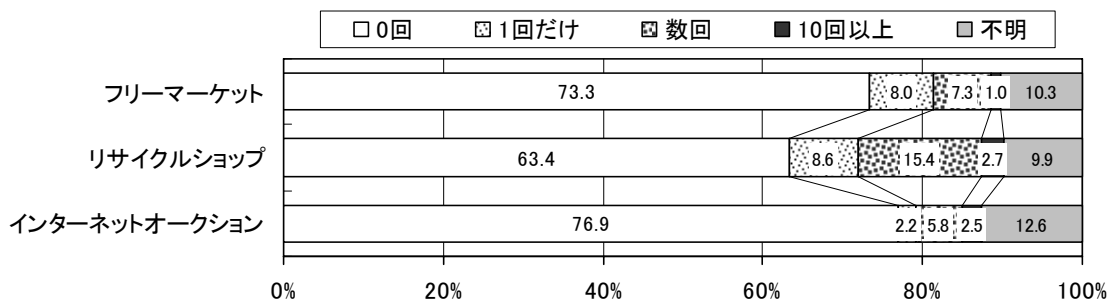
○ 事業所を「併設している」という回答は約9%となっている。

② 事業活動からのごみの排出先を「有料指定袋」導入後に変更したか



○ 「有料指定袋」導入後に事業活動からのごみの排出先を「変更した」事業所は約1%である。

(8) フリーマーケット等の1年間の利用回数〔第1回:Q6〕

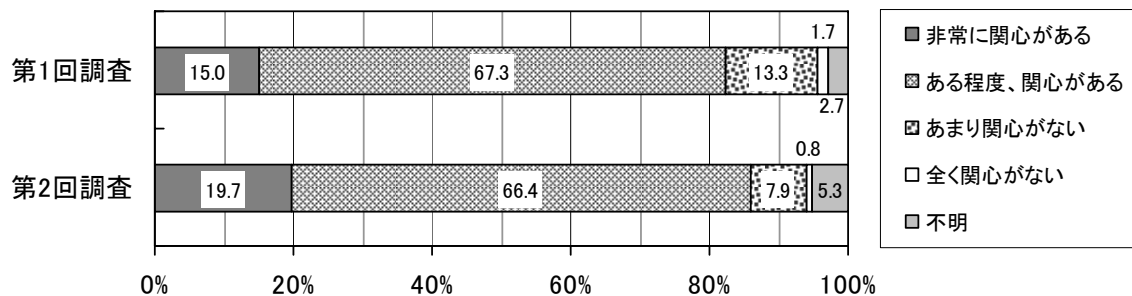


○ 3つの手段の中では、リサイクルショップの利用回数が最も大きく、年に数回以上利用されている方も2割弱という結果となった。

○ インターネットオークションについては、フリーマーケット及びリサイクルショップに比べて、利用されている方のうち、「10回以上」とする比率が、「1回だけ」および「年に数回」とする比率が相対的に高い。つまり、利用者の中で高頻度利用者の割合が相対的に高いことが示唆された。

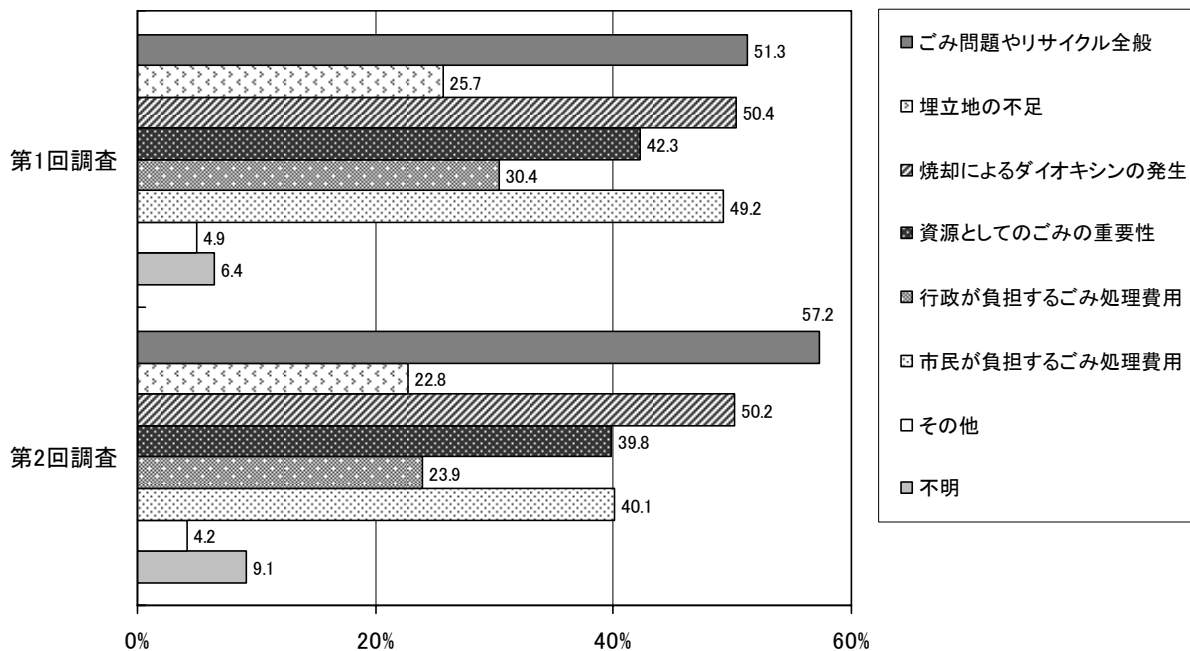
(9) ごみ問題やリサイクルへの関心及び意見

① ごみ問題やリサイクルの取組への関心度〔第1回:Q7 第2回:Q6.1〕



- 第2回では、ごみ問題やリサイクルの取組に「非常に興味がある」とする比率が上昇し、「あまり興味がない」とする比率が低下している。(それぞれ有意)

② ごみ問題についての関心事項〔第1回:Q8 第2回:Q6.2 複数選択回答制〕

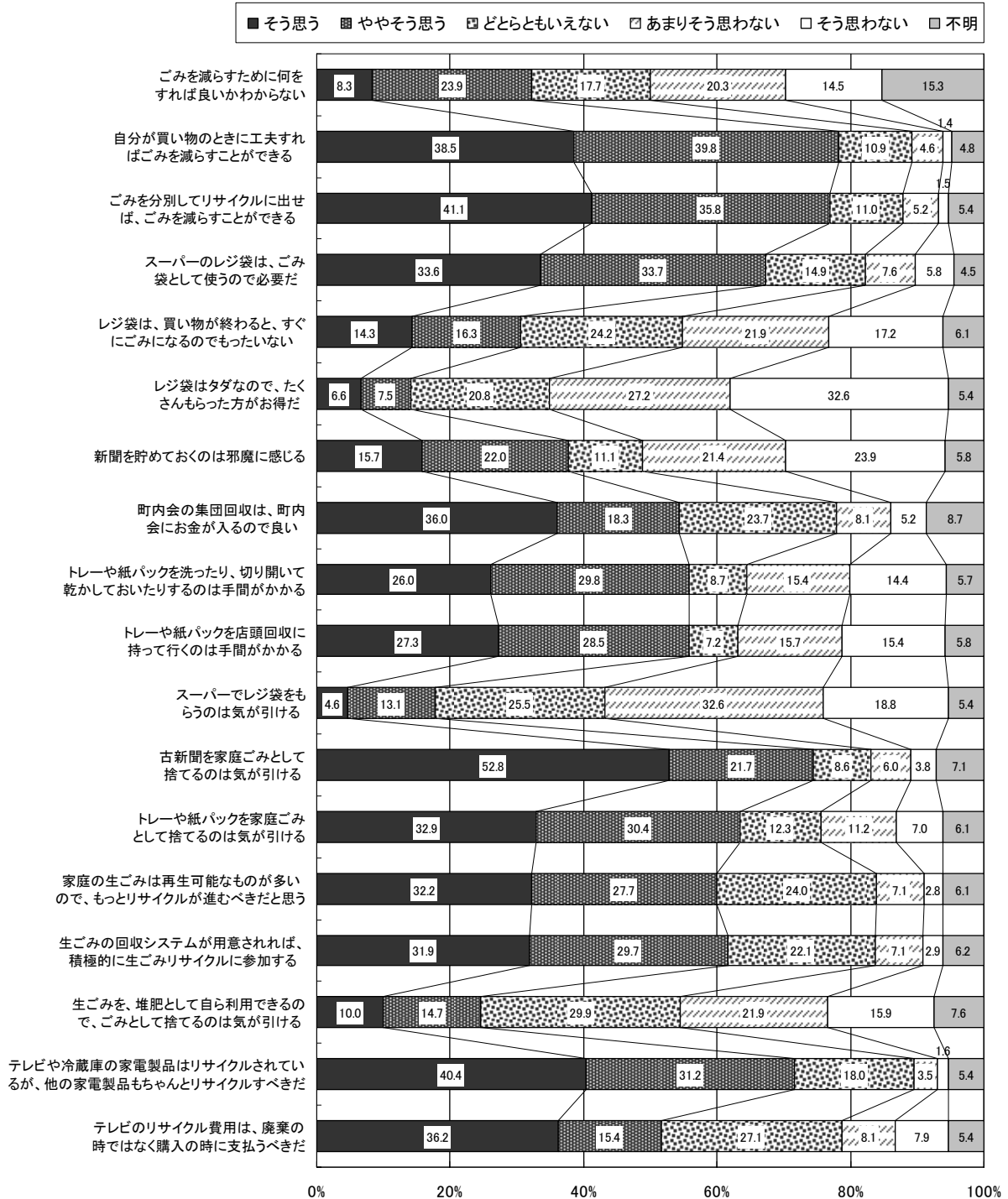


- ごみ問題についての関心事項として、第2回では、「ごみ問題やリサイクル全般」の比率が有意に上昇している。
- 一方、「行政が負担するごみ処理費用」および「市民が負担するごみ処理費用」の比率は有意に低下している。有料指定袋の金額について、導入前に想像されていたよりもインパクトがあまり大きくなかった可能性が示唆される。
- 「埋立地の不足」、「焼却によるダイオキシンの発生」、「資源としてのごみの重要性」の比率には、大きな変化は見られない。

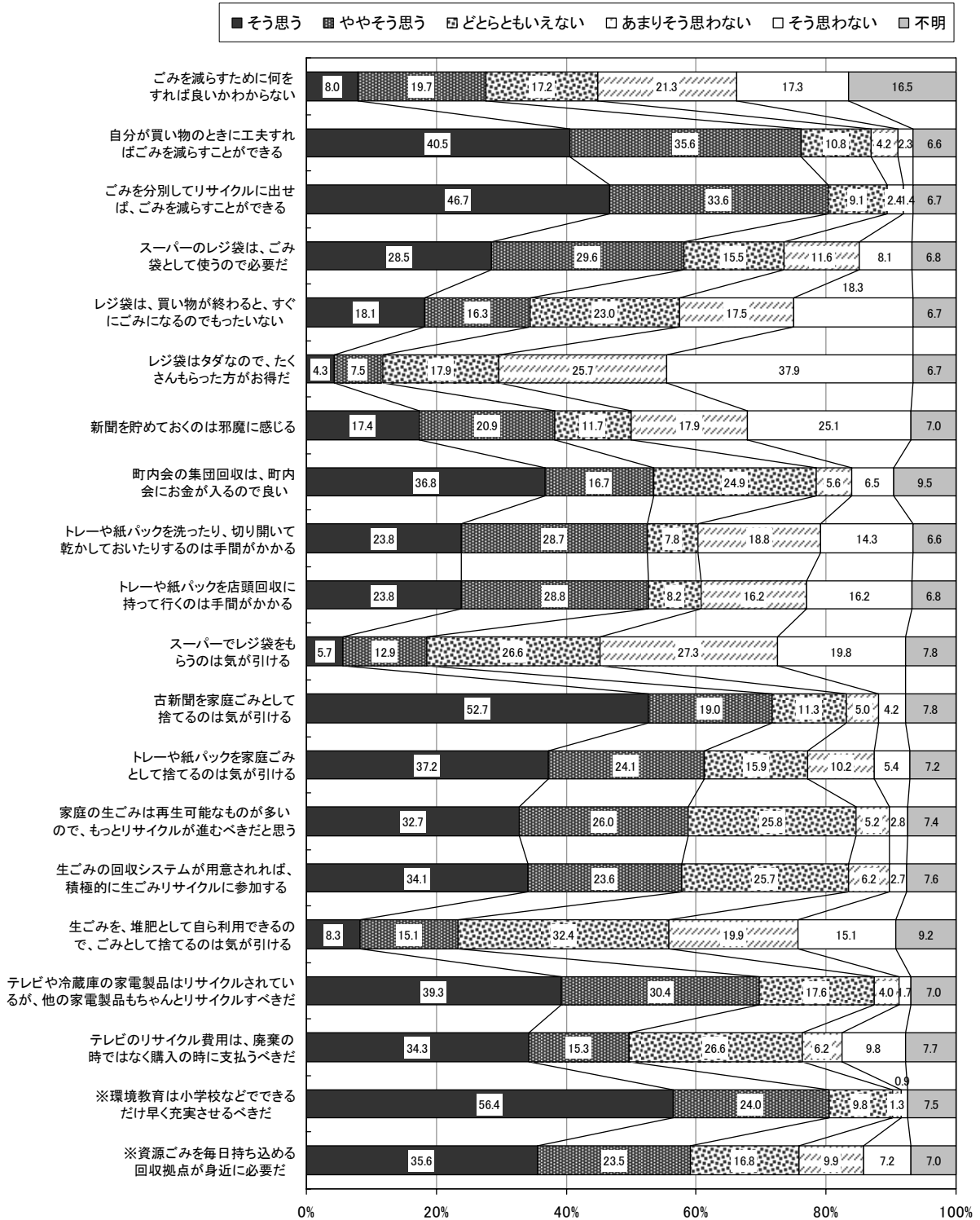
③ ごみ問題についての意見〔第1回:Q9 第2回:Q8〕

「ごみ問題についての意見」では、多くの意見に対する支持程度を一覧表的に質問した。このため、以下では、本調査の結果をそれぞれに示した後、変化がみられた意見項目を抽出している。

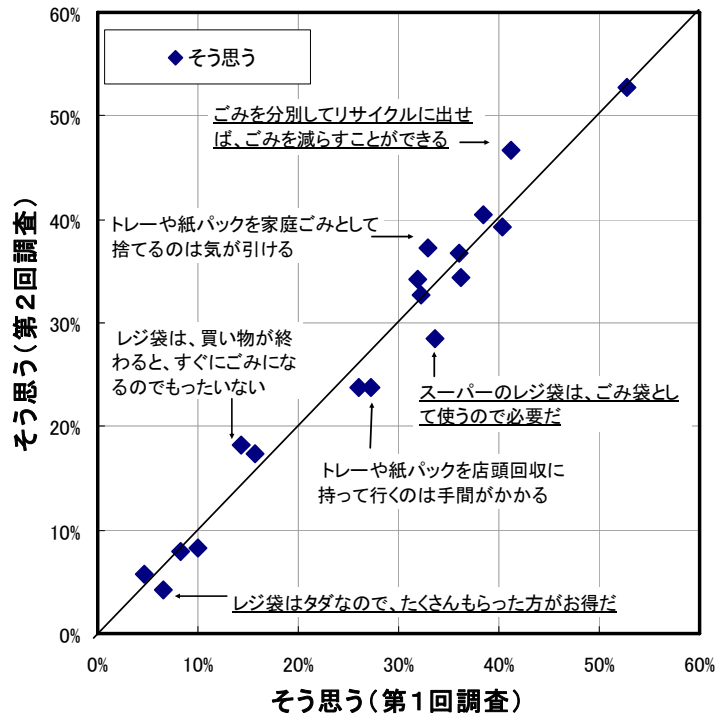
【第1回調査】



【第2回調査】



※ 「環境教育は小学校などでできるだけ早く充実させるべきだ」および、「資源ごみを毎日持ち込める回収拠点が身近に必要」は第2回において追加した質問肢である。



- 前図は、横軸を第1回、縦軸を第2回とし、質問ごとに「そう思う」の回答を並べ、第1、2回の変化の状況を示している。斜めの直線上は、第1、2回とも、同じ比率だったことを表し、斜め線の左上は「そう思う」が第2回の方が高くなり、斜め線の右下は「そう思う」が第1回より下がったことを表している。
- 2回の調査の「そう思う」の比率の差を検定して有意であった行動は、具体的な内容も示した。また、回答比率全体でも変化が有意であった行動には下線を付した。
- 「ごみを分別してリサイクルに出せば、ごみを減らすことができる」とする比率の増加(6%)が各意見の中で最も高かった。
- 「トレーや紙パックを家庭ごみとして捨てるのは気が引ける」とする比率の増加や、「スーパーのレジ袋は、ごみ袋として使うので必要だ」とする比率の低下がみられた。有料指定袋導入後にごみ減量、リサイクルに関する市民の意識が高まっていることが示唆される。また、後者については、「指定袋」導入による影響もあると考えられる。
- 「ごみを減らすために何をすれば良いかわからない」については、 χ^2 独立性検定結果では、第1回と第2回では有意な変化は確認されない。しかし、集計結果をみると、全体的には「そう思わない」方向へと回答のシフトが起こっているように思われる。そこで、回答選択肢に順序関係があることから、マン・ホイットニのU検定を実施した。不明を除いた集計結果について、 χ^2 独立性の検定ではやはり有意ではなかったが、U検定ではP値(両側確率)は2.7%となり、有意水準5%で変化があったといえる。